

IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8.0 フィックスパック 4 Readme

日付 2004 年 12 月 19 日

名前:3.8.0-TEC-FP04

コンポーネント:IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8

PTF 番号:U800657

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、本書の末尾にある『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第 1 刷 (2004 年 12 月)

本書は、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3 リリース 8 (プロダクト番号 5698TEC00) 、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

(C) Copyright International Business Machines Corporation 2004.

All rights reserved.

US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.

目次

このフィックスパックについて

- フィックスパックの内容
- このフィックスパックによって置き換えられるパッチ
- サポートされるオペレーティング・システム
- フィックスパックについての注意

インストールおよび構成

- 前提条件
- インストールの方法
- 拡張ログ・ファイル・アダプターのインストール
- ID 属性の変更
- ID を使用した TME アダプターのインストール
- TME アダプターのアップグレードと除去
- Windows 用の非 TME 拡張ログ・ファイル・アダプターのインストール
- UNIX® 用の非 TME アダプターのインストール
- 拡張ログ・ファイル・アダプターの構成
- アダプター構成の再ロード

このフィックスパックに含まれている APAR フィックス

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP03 に含まれている APAR フィックス

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP02 に含まれている APAR フィックス

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP01 に含まれている APAR フィックス

既知の問題点および制限

資料の更新内容

このフィックスパックで追加、または差し替えられたファイル

カスタマー・サポートとの連絡

商標

このフィックスパックについて

このセクションでは、このフィックスパックについての一般情報を記載しています。このフィックスパックをインストールする前に、この資料全体をお読みください。この Readme 資料は、Adobe Acrobat 形式のみで提供されています。

フィックスパックの内容

3.8.0-TEC-FP04.tar ファイルには、以下の内容が含まれています。

- この Readme ファイル
- このフィックスパックのイメージ・レポート
- このフィックスパックの CD-ROM イメージ

Tar ファイル

完全な tar ファイルである 3.8.0-TEC-FP04.tar に加え、フィックスパック・ダウンロード・ディレクトリーには、さまざまなコンポーネントのフィックスパックの tar ファイルが入っている Components サブディレクトリーがあります。これらの tar ファイルを使用して、必要とするフィックスパックの部分だけをダウンロードし、ダウンロード時間とディスク・スペースを節約できます。Components サブディレクトリーにある tar ファイルを構成するファイルは、3.8.0-TEC-FP04.tar ファイルを構成するファイルと同じです。ただし、readme ファイルだけは、最上位のディレクトリーおよび完全な tar ファイルでのみ入手できます。

Components サブディレクトリーの内容は、以下のとおりです。

コンポーネント	ディレクトリー	ファイル名	サイズ
TMF インストール・イメージ	TME®	3.8.0-TEC-FP04-TME.tar	118MB
データベース構成ウィザード	DBASSISTANT	3.8.0-TEC-FP04-DBASSISTANT.tar	245MB
非 TME ファイル (コンソールとアダプター)	NON_TME	3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-AIX4-R1.tar	49MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-AS400.tar	11MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-EIF.tar	2.5MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-HPUX.tar	102MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-LINUX-IX86.tar	53MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-LINUX-S390.tar	6.9MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-MIPS-IRIX5.tar	6.7MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-OSF-AXP.tar	7.8MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-RELIANT-UNIX.tar	7.3MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-SOLARIS2-IX86.tar	6.2MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-SOLARIS2.tar	72MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-UW2-IX86.tar	6.4MB
		3.8.0-TEC-FP04-NON_TME-W32-IX86.tar	72MB

このフィックスパックによって置き換えられるパッチ

- 3.8.0-TEC-FP01
- 3.8.0-TEC-ELFALA
- 3.8.0-TEC-FP02
- 3.8.0-TEC-FP03
- 3.8.0-TEC-0019LA
- 3.8.0-TEC-0020LA
- 3.8.0-TEC-0021LA
- 3.8.0-TEC-0022LA
- 3.8.0-TEC-0023LA

サポートされるオペレーティング・システム

このセクションでは、このフィックスパックによってサポートされるオペレーティング・システムをリストしています。

サポートされるオペレーティング・システムのバージョン	イベント・サーバー	ゲートウェイ	エンドポイント・アダプター	UI サーバー	イベント・コンソール
AIX® 5.1	X	X	X	X	X
AIX 5.1.0 C (32 ビット)	X	X	X	X	X
AIX 5.2 (32、64 ビット)	X	X	X	X	X
Compaq Tru64 5.1b			X		
HP-UX 11i (32、64 ビット)	X	X	X	X	X
Novell NetWare 6.5			X		
OS/400® 5.1、5.1C (32、64 ビット)、5.2 (32、64 ビット)			X		
Red Hat Advanced Server 2.1 (IA32)	X	X	X	X	X
SCO UnixWare 7.1.1、7.1.3			X		
SGI IRIX 6.5.x			X		
Siemens Reliant UNIX 5.4.5			X		
Solaris 8 (x86)			X		
Solaris 8、9 (32、64 ビット)	X	X	X	X	X
SUSE Linux® Enterprise Server (SLES) 8 (IA32) (UnitedLinux 1 で稼働する)	X	X	X	X	X
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 8 (zSeries) (UnitedLinux 1 で稼働する)	X	X	X	X	
Turbo Linux for Intel 7.0	X	X	X	X	X
Windows® 2000 Professional (SP1/3)	X	X	X	X	X
Windows 2000 Server	X	X	X	X	X
Windows 2000 Advanced Server (SP3)	X	X	X	X	X
Windows XP Professional (SP1)	X	X	X	X	X
Windows Server 2003	X	X	X	X	X

注:

- FP04 以降、以下のオペレーティング・システムおよびデータベースはベンダーによりサポートされなくなりました。サポート対象外になったものの一部は以下のとおりです。
 - AIX 4.3.3
 - Compaq Tru64 5.0 および 5.1a
 - DB2® 7.1 および 7.2
 - HP 11
 - Informix 9.2
 - Novell NetWare 5.0、NetWare 5.1、NetWare 6.0
 - Oracle 8i
 - OS/400 V4R5

- Red Hat Server 7.1/7.2
- Red Hat Professional 7.3
- SCO UnixWare 7.0.1
- Solaris 2.6
- Solaris 7
- SUSE Linux 8.1
- SUSE SLES 7 IA32 および zSeries
- Sybase 11.9.2
- 「Solaris」は Solaris オペレーティング環境のことであり、これ以降「Solaris」として参照します。
- このプラットフォーム・サポート表は、このフィックスパックのリリース時に入手できる情報に基づいています。この表では、オペレーティング・システムのベンダーが示す、有効期間の終了に達したオペレーティング・システムを記載しています。現行のサポート情報については、IBM のオンライン・サポートを参照してください。

サポートされるデータベース

このセクションでは、このフィックスパックによってサポートされるデータベースをリストしています。

RDBMS ベンダー	バージョン
IBM DB2	8.1 (FP4)
Informix®	9.3
Microsoft® SQL Server	7.0、2000
Oracle	9i、9i v2 (32 ビット・クライアント)
Sybase	12.0、12.5

注:

- Tivoli Management Framework バージョン 3.7.1 では、Linux 上で RIM ホストを構成することはできません。
- Tivoli Management Framework バージョン 3.7.1 は、HP-UX システムの DB2 RIM オブジェクトをサポートしていません。
- Windows NT® オペレーティング・システムはサポートされていませんが、Windows NT イベント・ログ・アダプターをアダプター構成機能 (ACF) として使用して、Windows NT エンド・ポイントに Windows NT イベント・ログ・アダプターを配布することは可能です。

フィックスパックについての注意

フィックスパックをインストールする前に以下の注意をお読みください。拡張ログ・ファイル・アダプターのインストールおよび構成に関する新しい情報もお読みになることをお勧めします。『資料の更新内容』には、このフィックスパックに関連する資料に対する変更についての情報が記されています。オペレーティング・システム固有のコマンドに関する情報は、オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルを参照してください。

このフィックスパックに含まれている非 TME コンソールは更新されています。この新しいコンソールを使用するには、以前の非 TME コンソールをアンインストールして、新しいコンソールをインストールしてください。

症状:**wsetmsg** コマンドを発行すると、Windows システム上でアドレス例外が発生する。

解決策:**wsetmsg** コマンドを発行しても、Windows アドレス例外にはならなくなりました。

症状:AIX オペレーティング・システム上では、**wrb** コマンドは IBM Tivoli Enterprise Console 3.8.0 上での実行よりも遅い。

解決策:**wrb** コマンドは、AIX オペレーティング・システム上での実行が、IBM Tivoli Enterprise Console 3.8.0 上での実行よりも速くなるように変更されました。

PollConnection、ProcessPriorityClass、および ProcessDisablePriorityBoost の各構成キーワードがアダプター構成ファイルに追加されました。これらのキーワードについて詳しくは、『インストールおよび構成』を参照してください。

LogSources キーワードは、メッセージをポーリングする ASCII ログ・ファイルを指定します。このキーワードについては、『インストールおよび構成』を参照してください。

複数のログ・ファイルのモニターで 1 つのアダプターのみを使用する場合にイベントのソースを識別するために、FILENAME キーワードを使用して、ファイル名にイベント属性を移植することができます。この構成オプションについては、『インストールおよび構成』を参照してください。

新規構成オプション ReadBufBlocks は、LogSources オプションが指定された 1 つ以上のファイルをモニターするすべての Windows アダプターで使用できます。このキーワードについては、『インストールおよび構成』を参照してください。

マッチングでメッセージ内の改行を認識するために、新しいフォーマットの仕様 %n が追加されました。この新しいフォーマットの仕様については、『インストールおよび構成』を参照してください。

Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8.0-TEC-FP01 以降から、バージョン 3.8.0-TEC-FP01 より前のバージョンの Tivoli Enterprise Console にイベントを転送するには、前のバージョンのアクティブ・ルール・ベース内の TEC_CLASSES/root.baroc ファイルを、EVENT クラス定義に fqhostname 属性を組み込むように更新する必要があります。そうしない場合、それらのイベントを受け取ると、PARSING_FAILED エラーが出されて失敗します。以下のステップに従って変更を加えてください。

1. 以下のエントリーを EVENT クラス属性リストに追加する。
fqhostname STRING;
2. ルール・ベースをコンパイルしてロードする。
3. Tivoli Enterprise Console サーバーを停止して再始動する。

このフィックスパックは、拡張ログ・ファイル・アダプターを組み込んでいます。既存の同じタイプのログ・ファイル・アダプターを同一のマシン上で使用することはできません。拡張ログ・ファイル・アダプターについては、『インストールおよび構成』を参照してください。

.tec_config ファイルに、新たに tec_recv_timeout 構成パラメーターが追加されました。この新規パラメーターについては、『資料の更新内容』を参照してください。

インストールおよび構成

このセクションでは、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8.0 の 3.8.0-TEC-FP04 フィックスパックのインストール情報を記載しています。

前提条件

IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8.0

IBM Tivoli Management Framework バージョン 3.7.1、4.1、または 4.1.1

IBM Tivoli Enterprise Console NetView 統合フィーチャーを利用するには、IBM Tivoli NetView バージョン 7.1.3 をインストールする必要があります。

IBM Tivoli Enterprise Console Warehouse Enablement Pack のインストール

Warehouse Enablement Pack ECO フィックスパックには、IBM Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.1.3 が必要です。

注:IBM Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.1 の Warehouse Enablement Pack ECO は、IBM Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.2 上でもインストールおよび実行可能ですが、IBM Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.2 の新規フィーチャーは使用しません。

以下の表は、IBM Tivoli Management Framework 製品の各バージョンで推奨されるパッチ、および特定のインストール・シナリオで推奨されるパッチを略述しています。

IBM Tivoli Management Framework のバージョン	推奨されるパッチ
3.7.1	3.7.1-TMF-0126、TMF 0134、3.7.1-LCF-0018

4.1	4.1.1-LCF-0004、4.1-TMF-0049、4.1-TMF-0060
4.1.1	4.1.1-TMF-0003*、4.1.1-LCF-0004、4.1.1-TMF-0010、4.1.1-LCF-0011

* Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 は、Framework 3.6.5 ライブラリーで構築されています。そのため、Tivoli Enterprise Console 3.8 のインストールの前に、4.1.1-TMF-0003 パッチをインストールする必要があります。このパッチには、Framework 3.6.5 ライブラリーが入っており、Framework 4.1.1 リリースにアップグレードされたシステム上にインストールして、古い 3.6.x ライブラリーを置き換えることができます。これらのライブラリーは、そのライブラリーで構築された以前のアプリケーションとの互換性を提供します。このパッチは新規インストール・システムには提供済みなもので、Framework 4.1.1 の新規インストール・システムにインストールする必要はなく、アップグレードされたシステムにのみ必要です。このパッチのインストール前にインストールすべきパッチはありません。

インストール・シナリオ	推奨されるパッチ
単一ポートの大量データ転送プログラム (BDT) を使用する OS/2® TME アダプターをインストールする このフィックスパックとともに Software Installation Services (SIS) をインストールする	3.7.1-TMF-0003、3.7.1-TMF-0008 3.7.1-TMF-0033 3.7.1-SIS-0005

インストールの方法

このセクションでは、このフィックスパックのインストールについての情報を記載しています。

このフィックスパックをインストールする前に、以下の処置を取る必要があります。

- IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリースで指定された最小要件を満たす。
- システムをバックアップする。
- イベント・サーバーを停止する。
- フィックスパックをインストールする前に、『フィックスパックについての注意』のセクションを読む。

.tec_config ファイルをカスタマイズした場合:このフィックスパックのインストール中、.tec_config ファイルが置換されます。このファイルをカスタマイズした場合、製品のアップデート後にカスタマイズ内容を利用するために、このフィックスパックのインストール前にファイルのバックアップ・コピーを作成する必要があります。

3.8.0-TEC-FP04 のトップ・レベル・ディレクトリー・ツリー:

標準のディレクトリー:

```
<380TECFP04_DIR>/TME
<380TECFP04_DIR>/NON_TME
<380TECFP04_DIR>/DBASSISTANT
<380TECFP04_DIR>/tdw_weps
<380TECFP04_DIR>/COMPONENTS
```

1. 次のようにして、フィックスパックを抽出します。
以下のコマンドを UNIX システム上で使用して、内容を一時ディレクトリーに抽出します。この例では、PATCH 変数とその一時ディレクトリーを指しているものとします。

```
cd $PATCH
tar -xvf 3.8.0-TEC-FP04.tar
```

以下のコマンドを Windows オペレーティング・システム上で使用して、内容を一時ディレクトリーに抽出します。この例では、変数 %PATCH% がこの一時ディレクトリーを表し、X は %PATCH% 変数があるドライブの文字です。

```
%SystemRoot%\system32\drivers\etc\Tivoli\setup_env
X:
```

```
> cd %PATCH%
> tar -xvf 3.8.0-TEC-FP04.tar
```

注:Windows システム上で TAR イメージを抽出する場合、TAR ユーティリティーの実行可能ファイルは Tivoli bin/w32-ix86/tools/tar.exe インストール・ディレクトリーにあります。

2. 以下の手順は、Software Installation Service (SIS) を使用する場合に適用されます。SIS を使用しない場合、ステップ 3 に進みます。SIS は、Tivoli ソフトウェアがサポートするほとんどのハードウェア・プラットフォーム上に Tivoli ソフトウェア製品をインストールできますが、SIS が実行できないハードウェア・プラットフォームもあります。SIS が実行可能なプラットフォームのリストについては、「Tivoli Enterprise インストール・ガイド」を参照してください。SIS パッチについての情報は、本書の『前提条件』のセクションを参照してください。このフィックスパックをインストールするには、install_product および super 許可の役割が必要です。

- a. Tivoli デスクトップのメニューから、「デスクトップ」→「インストール」→「Software Installation Service」を選択します。
- b. 「インストール・パスワードの取得」ウィンドウで、インストール・パスワードを入力します。
- c. Tivoli ロゴが表示されるウィンドウで、「インストール」をクリックします。
- d. 「スプレッドシートのインストール」ウィンドウで、「プロダクトの選択」をクリックします。
- e. 「プロダクトの選択」ウィンドウで、「プロダクトのインポート」をクリックします。
- f. ファイル・ブラウザを使って 3.8.0-TEC-FP04 のメディアを見つけた後、PATCHES.LST ファイルをダブルクリックします。
- g. 「プロダクトのインポート」ウィンドウで、「3.8.0-TEC-FP04」を選択して「インポート」をクリックします。
- h. ファイルのインポートが完了したら、進行状況を示すウィンドウで「OK」をクリックします。
- i. 「プロダクトの選択」ウィンドウで、「3.8.0-TEC-FP04」を選択して「OK」をクリックします。
- j. 「スプレッドシートのインストール」ウィンドウで、「マシンの選択」をクリックします。
- k. 3.8.0-TEC-FP04 をインストールするマシンを選択して、「OK」をクリックします。
- l. 「スプレッドシートのインストール」ウィンドウで、適切なセルを選択します。
3.8.0-TEC-FP04 フィックスパックがインストールされるマシンのセルに、文字 X が表示されます。
- m. 「インストール」をクリックします。
- n. 「インストール・アルゴリズム」ウィンドウで、使用するインストール・アルゴリズムを選択し、「OK」をクリックします。「スプレッドシートのインストール」ウィンドウで指定したインストールが実行されます。
- o. ステップ 4 に進み、インストールを完了します。

3. 従来の Tivoli インストール方式を使用してフィックスパックをインストールする場合は、以下の手順を実行します。

注:このフィックスパックを正常にインストールするには、install_product および super 許可の役割が必要です。

- a. Tivoli デスクトップのメニュー・バーから、「デスクトップ」→「インストール」→「パッチのインストール」を選択します。「パッチのインストール」ウィンドウが表示されます。
- b. 「パッチのインストール」ウィンドウから、「メディアの選択」ボタンをクリックします。「ファイル・ブラウザ」ウィンドウが表示されます。
- c. 「ファイル・ブラウザ」ウィンドウの「パス名」フィールドに、\$PATCH フィックスパックを含んでいるディレクトリーへのパスを入力します。
- d. 「メディアの選択 & クローズ」をクリックして、「パッチのインストール」ウィンドウに戻ります。
- e. 「パッチのインストール」ウィンドウで、フィックスパックの名前をクリックしてそれを選択します。
- f. フィックスパックをインストールするクライアントを選択します。通常は、Tivoli サーバーおよび各 Tivoli クライアントにフィックスパックをインストールする必要があります。
- g. 「インストール」をクリックします。

4. 既存のルール・ベースを新規の TEC_TEMPLATES/templates.wic で更新するには、以下のようになります。

- a. Tivoli 環境を呼び出します。
 - UNIX システムではコマンド行から、/etc/Tivoli/setup_env.sh スクリプトを実行します。
 - Windows システムではコマンド行から、以下のスクリプトを実行します。

```
%SystemRoot%\¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥Tivoli¥setup_env.cmd
bash
```

- b. 以下のコマンドを発行して、既存のルール・ベースをアップグレードします。

```
$BINDIR/TME/TEC/upg_templates.pl rule_base_dir 1
```

ここで `rule_base_dir` は、アップグレードするルール・ベースが入っているディレクトリーです。

- c. 以下のコマンドを発行して、新規の `templates.wic` をルール・ベースのターゲットに適用します。

```
wrb -comprules rulebase_name
```

- d. 以下のコマンドを発行して、新規の `templates.wic` を現在ロードされているルール・ベースに代えてロードします。

```
wrb -loadrb rule_base_name
```

5. イベント・サーバーを再始動します。

APAR IY51636 に関連したタスク・ライブラリーの更新

このフィックスパックでは、この修正に伴ってタスク・ライブラリーが更新されることはありません。というのは、タスク・ライブラリーを変更したユーザーにとっては、更新によりカスタマイズの内容が上書きされると困るからです。`$BINDIR/TME/TEC/tec_tasks.tll` ファイルは更新されています。この修正を有効にするには、タスク・ライブラリーを更新するために付加的な手順を実行する必要があります。

注:この作業を Linux システム上で実行する場合は、すべての `wtll` コマンドでコマンド行オプションとその引き数の間のスペースをすべて削除してください。たとえば、最初の `wtll` コマンドは次のようになります。

```
$BINDIR/bin/wtll -r -pTEC-Region -P/bin/cat $BINDIR/TME/TEC/tec_tasks.tll
```

1. T/EC Tasks タスク・ライブラリーをまだ変更していないなら、次のコマンドを実行することにより、新しい `tec_tasks.tll` ファイルでタスク・ライブラリーを更新してください。

```
# $BINDIR/bin/wtll -r -pTEC-Region -P /bin/cat $BINDIR/TME/TEC/tec_tasks.tll
```

これにより、T/EC Tasks タスク・ライブラリーからすべてのタスクが削除され、`tec_tasks.tll` ファイルから再作成されます。

2. T/EC Tasks タスク・ライブラリーにタスクを追加しただけであり、どのデフォルト・タスクも変更していない場合は、次のステップを実行してください。

- a. T/EC Tasks から、追加したタスク以外のすべてのタスクを削除します。

- b. 次のコマンドを実行します。

```
# $BINDIR/bin/wtll -i -pTEC-Region -P /bin/cat $BINDIR/TME/TEC/tec_tasks.tll
```

これにより 新しい `tec_tasks.tll` のすべてのタスクが T/EC Tasks タスク・ライブラリーに追加されます。

3. タスク・ライブラリー中のデフォルト・タスクに変更を加えた場合は、次のステップを実行してください。

- a. 以下のコマンドを実行することにより、タスクをダンプします。

```
# wtll -F /tmp/tll.tar -l "T/EC Tasks"
```

- b. `tll.tar` ファイルを抽出します。`#.default` ファイル (個々のタスク・スクリプト) の数と `tll` ファイル (タスク・ライブラリー定義) のリストが出力されます。

- c. `tll` ファイルを編集して、以下の変更を加えます。

次の部分

```
.EVENT_SERVER=`wlookup -ar EventServer | tail -1 | cut -f2`
```

を次のように変更します。

```
.TMRNAME=`wtmrname`
```

```
.EVENT_SERVER=`wlookup -r EventServer "EventServer#$TMRNAME"`
```

次の部分

```
.EventServer=`wlookup -r EventServer -a | tail -1 | awk '{print $2}'`
```

を次のように変更します。

```
.TMRNAME=`wtmrname`
```

```
.EventServer=`wlookup -r EventServer "EventServer#$TMRNAME"`
```

- d. これらの変更を加えた後、以下のコマンドを実行することによって、変更後の `tll` ファイルを再ロードします。

```
# wtll -r -pTEC-Region -P /usr/lib/cpp /tmp/tll
```

4. TMR に接続したなら、各 TMR から次のコマンドを実行することによって、リージョン間で情報を更新します。`wupdate -r TaskLibrary <other-region-name>`。

Tivoli Enterprise Data Warehouse Enablement Pack のパッチのインストール

Warehouse Enablement Pack ECO のフィックスパックは、/tdw_weps/eco/fixpack ディレクトリーにあります。

Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.1 の場合、Tivoli Enterprise Data Warehouse Enablement Pack のパッチのインストールの詳細手順については、「Tivoli Enterprise Data Warehouse インストールおよび構成 バージョン 1.1」の第 10 章『Applying a fix to a warehouse pack』を参照してください。

Warehouse Enablement Pack のパッチをインストールするには、以下の手順を実行してください。

開始する前に、UNIX を使用している場合は、root でログインしている必要があります。Windows オペレーティング・システムを使用している場合は、ローカル・アドミニストレーター・グループのメンバーである必要があります。TWH_TOPDIR および TEMP システム環境変数も、このセッションで定義する必要があります。

1. Windows システムを使用している場合は、**bash** コマンドを入力します。これは Tivoli Enterprise Data Warehouse のインストール・システムで提供されます。
2. `cd "$TWH_TOPDIR/install/bin"` と入力します。
3. `./tedw_wpack_patchadm.sh` と入力します。
4. このプログラムが実行を停止した場合、<TEMP_DIR>/twh_app_patcher.cfg を編集し、以下のタグの正しい情報を入力して、ステップ 3 で実行した `tedw_wpack_patchadm.sh` を再実行します。

```
APP_MEDIA_DIR
PS_HOME
DB2PASS
COPT_CTRL_DB2PASS
COPT_CDW_DB2PASS
COPT_MART_DB2PASS
```

注:PS_HOME= タグは、RPI コンポーネントが現行のシステムにインストールされている場合のみ表示されます。

5. パッチのインストールが正常に終了すると、以下の行が表示されます。

```
==> TEDW Warehouse Pack Patch Installation Successfully Completed!!!
```

6. 別のアプリケーション・ウェアハウスをインストールする場合、APP_MEDIA_DIR タグの値を、インストールする次のパッチのパッチ・インストール・ソース・ディレクトリー (次のパッチの twh_install_props.cfg ファイルが入っているディレクトリー) に変更できます。他のタグの値は変更せずそのままにします。その後、ステップ 3 に進み、アプリケーション・ウェアハウス・イネーブルメント・パックの次のパッチを実行します。

パッチのインストールが失敗した場合、以下のファイルから情報を入手できます。

```
<TEMP_DIR>/twh_install_wpack_patcher.log
<TEMP_DIR>/twh_ibm_db2_wpack_patch_runlog.log
```

パッチが適用されたアプリケーション・ウェアハウス・イネーブルメント・パックのコピー

このプロセスは、システムにリモート・ウェアハウス・エージェントがインストールされている場合にのみ実行してください。

開始する前に、コントロール・サーバー・システム上で、ローカル・アドミニストレーター・グループのメンバーとしてログオンしており、TWH_TOPDIR システム環境変数がこのセッションで定義されていることを確認してください。

1. `bash` と入力します。
2. `cd $TWH_TOPDIR` と入力します。
3. `tar -cvf appweps.tar apps` と入力します。

4. appweeps.tar ファイルを、リモート・ウェアハウス・エージェントがインストールされている各システムの TEMP システム環境変数で定義されたディレクトリーにコピーし、それぞれのシステムでステップ 5 から 9 を実行します。
5. コマンド・セッションまたは端末セッションを開きます。UNIX システムでは root として、Windows システムではローカル・アドミニストレーター・グループのメンバーとしてログインし、TWH_TOPDIR および TEMP システム環境変数がこのセッションで定義されていることを確認します。
6. Windows システムであれば、bash と入力します。
7. cd \$TWH_TOPDIR と入力します。
8. 以下のコマンドを順に入力します。それぞれのコマンドが完了するまで待機してください。


```
tar -xvf $TEMP/appweeps.tar
chmod -R 755 apps
rm $TEMP/appweeps.tar
```
9. リモート・ウェアハウス・エージェント・システム上の <TWH_TOPDIR>/apps の下のディレクトリー構造が、コントロール・サーバー・システム上の <TWH_TOPDIR>/apps の下のディレクトリー構造と同じであることを検査します。ファイルおよびディレクトリー名の英字は、どのシステムでも大文字小文字が同じでなければなりません。

Tivoli Enterprise Data Warehouse バージョン 1.2 の場合、Tivoli Enterprise Data Warehouse Enablement Pack のパッチのインストールの詳細手順については、「Tivoli Enterprise Data Warehouse インストールおよび構成 バージョン 1.2」の第 10 章『Applying a fix to a warehouse pack』を参照してください。

拡張ログ・ファイル・アダプターのインストール

Tivoli デスクトップからアダプター構成機能 (ACF) にアクセスして、拡張ログ・ファイル・アダプターを構成およびデプロイすることができます。標準の ACF 手順に従って、ターゲット・エンドポイントおよび特定のログ・ファイル・アダプターを選択します。これらは拡張ログ・ファイル・アダプターの名前です。

- tecad_enh_nt
- tecad_enh_win
- tecad_enh_logfile_aix4-r1
- tecad_enh_logfile_hpux10
- tecad_enh_logfile_solaris2
- tecad_enh_logfile_linux-ix86
- tecad_enh_logfile_linux-s390

注:既存の TME ログ・ファイル・アダプターと拡張 TME ログ・ファイル・アダプターを同じマシンで使用することはできません。既存の非 TME ログ・ファイル・アダプターと非 TME 拡張ログ・ファイル・アダプターを同じマシンに配置することは可能です (ただし、それぞれの非 TME 拡張ログ・ファイル・アダプターが固有のアダプター ID を持ち、かつ非 TME 拡張ログ・ファイル・アダプターが既存の非 TME ログ・ファイル・アダプターと別のディレクトリーにインストールされている場合に限りです)。

ID 属性の変更

ACF の「一般」ウィンドウでいずれかの拡張 TME ログ・ファイル・アダプターを選択すると、ID フィールドが表示されます。ID フィールドを選択すると、ID 名を指定できるようになります。

ID を使用した TME アダプターのインストール

拡張 TME アダプターのインストール手順は、標準の TME アダプターのインストール手順と同様です。ただし、拡張アダプターのインストールでは、その特定のアダプターに関連した ID を使用できます。ID を指定しない場合、インストール方法は変わりません。ID を指定する場合には、以下のようにインストール手順が変更されます。

- ID を etc ディレクトリーに保管するために、インストール・ディレクトリー構造が変更されます。バイナリー・ファイルは引き続き bin ディレクトリーに格納されます。なお、構成ファイルとフォーマット・ファイルは新たに <identifier>/etc ディレクトリーに格納されるようになりました。エンドポイントでは、ディレクトリー構造は以下ようになります。

```
%lcf_datdir%/.../bin/%interp%/TME/TEC/adapters/
```

```
%lcf_datdir%/../bin/%interp%/TME/TEC/adapters/bin
%lcf_datdir%/../bin/%interp%/TME/TEC/adapters/<identifier>/etc
%lcf_datdir%/../bin/%interp%/TME/TEC/adapters/<identifier>/etc/C
%lcf_datdir%/../bin/%interp%/TME/TEC/adapters/<identifier>/etc/<lang>
```

- 拡張アダプターの開始および終了に使用するコマンドが変更されました。
Windows NT および Windows 2000 システムの場合、start コマンドは次のとおりです。

```
net start <adapter>_<idname>
```

たとえば、
net start tecwinadapter_myid

ここで、myid は ID の値です。

stop コマンドは次のとおりです。

```
net stop <adapter>_<idname>
```

UNIX および Linux ベースのシステムの場合、start コマンドは次のとおりです。

```
init.tecad_logfile start <idname>
```

たとえば、
init.tecad_logfile start myid

ここで、myid は ID の値です。

stop コマンドは次のとおりです。

```
init.tecad_logfile stop <idname>
```

TME アダプターのアップグレードと除去

既存のアダプターを拡張アダプターにアップグレードするには、以下のステップを実行します。

1. **tecad_logfile.conf** ファイルやフォーマット・ファイルの内容を大幅に変更した場合は、ファイルのコピーを保存します (これらのファイルは、TECADHOME/etc ディレクトリーにあります)。
2. 元のバージョンのログ・ファイル・アダプターを除去するために、空のプロファイルを配布します。ACF を使用してアダプターをアンインストールする方法については、「IBM Tivoli Enterprise Console インストール・ガイド」を参照してください。
3. ACF で、拡張アダプター用の新しいアダプター構成プロファイル (ACP) を作成します。
4. 保存済みの etc ディレクトリー内に、環境を使用して新規 ACP を変更します。
5. プロファイルをエンドポイントに配布します。
6. アダプターを再始動します。

注:アダプター ID を変更すると、参照されるインスタンスが変更されます。このため、アダプター ID を変更しないでください。既存のアダプターのアダプター ID を変更したい場合は、既存のアダプターを除去して、新しいアダプターをインストールする必要があります。

Windows 用の非 TME 拡張ログ・ファイル・アダプターのインストール

インストール中に、アダプター ID を指定できます。アダプター ID を使用する場合、アダプター ID 名が必要です。Tivoli 環境と同様のディレクトリー構造が作成されます。

UNIX 用の非 TME アダプターのインストール

非 TME 拡張アダプターのインストール手順は、アダプター ID を除いて、標準のアダプターのインストールと同じです。アダプター ID を指定するには、以下のように **tecad_logfile.cfg** コマンドを実行します。

```
tecad_logfile.cfg <idname>
```

ここで、idname はアダプター ID の値です。

注:start および stop コマンドがそれぞれ変更されたことに注意してください。

拡張ログ・ファイル・アダプターの構成

以下のセクションでは、拡張ログ・ファイル・アダプターの構成に必要な情報を示します。

アダプター構成の再ロード

アダプター構成ファイルとフォーマット・ファイルを再ロードするには、**wsighup** コマンドを実行します。アダプターのサービス・バージョンを実行している場合には、以下のコマンドを入力します。

```
wsighup service_adapter_name
```

ここで、service_adapter_name はアダプターのサービス名です。

アダプターのコマンド行バージョンを実行している場合には、以下のコマンドを入力します。

```
wsighup service_adapter_name pid
```

ここで、service_adapter_name はアダプターのサービス名、pid はアダプターのプロセス ID です。

このコマンドを実行すると、アダプターを停止および再始動せずにアダプター構成が変更されます。たとえば、システムが保守モードに入るとき、フォーマット・ファイル内にフィルターやエントリーを一時的に追加して後で除去したい場合があるかもしれません。構成ファイルとフォーマット・ファイルの内容を適切に変更した後、このコマンドを実行すれば、アダプター構成を動的に更新することができます。

注:配布アダプターの CONF ファイルがローカルに変更された状態で **wsighup** コマンドを実行した場合、新しい CONF ファイルが配布されるときに、その変更内容が失われます。

新規の、または変更された構成ファイル・キーワード

```
PollConnection <seconds>
```

サーバーの接続をポーリングする最小時間を指定します。この接続ポーリングによって、新しいイベントがサーバーに到着していなくても、アダプターのキャッシュ・ファイルが強制的に空になります。このキーワードの値を指定しない場合、拡張ログ・ファイル・アダプターは元のログ・ファイル・アダプターと同様に機能します。

```
ProcessPriorityClass
```

アダプターのプロセス優先度を指定します。この値を調整すれば、アダプターが大量のイベントを処理し、プロセッサ・リソースを過大に使用している場合に、システム・パフォーマンスを改善できます。

取りうる値は以下のとおりです。

```
A IdlePriority
B BelowNormalPriority
C NormalPriority
D AboveNormalPriority
E HighPriority
F RealTimePriority
```

デフォルト値は C (NormalPriority) です。

注:

- パフォーマンスの低下を防ぐために、デフォルト値の使用を推奨します。
- ProcessPriorityClass 属性は、SNMP アダプターでは使用できません。

さらに、以下のような新しいトレース・メッセージが追加されました。

```
bad value of priority class, used default value
priority class was changed successfully
unable to change priority class
```

ProcessDisablePriorityBoost (Windows オペレーティング・システムのみ)

アダプター・プロセスの優先度引き上げを使用不可にするかどうかを指定します。このオプションを使用すれば、アダプターが大量のイベントを処理し、プロセッサ・リソースを過大に使用している場合に、システム・パフォーマンスを改善できます。このオプションを TRUE に設定すると、優先度引き上げが使用不可になります。デフォルト値は FALSE です。

LogSources

メッセージのポーリング用の ASCII ログ・ファイルを指定します。各ファイルの完全なパスを指定し、それぞれのファイル名をコンマで区切る必要があります。スペースその他の区切り文字は使用できません。アダプターの開始時にログ・ファイル・ソースが存在する必要はありません。ログ・ファイル・ソースが作成されるときにポーリングされます。

アダプターがアクティブ状態のときにファイルが切り捨てられた場合、アダプターはファイルの新しい終了場所にポインターを自動的に設定し、ファイル切り捨て後に書き込まれるすべての新しいメッセージを引き続き処理します。ポーリング間隔中にファイルが上書き、削除、または以前のポーリング時よりも多い行数で再作成された場合には、以前の行カウントを超える行数だけが読み取られます。たとえば、ファイルの行数が 1 行であるとします。所定のポーリング間隔が経過した後、そのファイルは 2 つの行で上書きされます。次のポーリングでは、第 2 の行だけが読まれます。

AS/400 システムの場合、アダプターがポーリングする対象のデフォルト・ファイルは、SYS:SYSTEM¥SYS\$LOG.ERR ファイルです。LogSources キーワードを使用して、他のファイルをさらに指定することができます。

注:LogSources キーワードを指定するとき、ルート・ディレクトリー内のファイルへの参照が存在しないようにしてください。

FILENAME

メッセージを格納するログ・ファイルの完全修飾ファイル名 (パスを含む) を指定します。単一のアダプターを使用して複数のログ・ファイルをモニターしたい場合には、このキーワードを使用してください。このキーワードを使用して、イベント・ソースを識別するファイル名を含むイベント属性を取り込むことができます。メッセージがシステム・ログに由来する場合、Windows アダプターではマッピングが EventLog に設定され、UNIX ログ・ファイル・アダプターでは SysLogD に設定されます。以下に例を示します。

```
FORMAT Lassy_Event FOLLOWS Logfile_Base
%s* Lassy %s*
severity CRITICAL
logfile FILENAME
-msg1 $1
-msg2 $2
comp_val PRINTF("%s %s",msg1,msg2)
END
```

logfile は、メッセージを含むログ・ファイルの完全修飾ファイル名です。

ReadBufBlocks

パフォーマンスと安定性を改善するために、LogSources オプションで指定された (1 つまたは複数の) ファイルをモニターするすべての Windows アダプターに関して、新しい構成オプションが使用できるようになりました。この ReadBufBlocks 属性は、各ポーリング間隔ごとにアダプターが読み取る 4096 バイト・ブロックの数を指定します。デフォルト値は 10 です。10 ブロック未満を指定する場合は、デフォルト値を使用してください。

例:

```
ReadBufBlocks=10
```

注:ReadBufBlocks をアダプター構成ファイル内で指定しない場合、アダプターは、指定された順序ですべてのファイルを完全に読み取ります。

新しいフォーマット指定:%n

メッセージ内の改行を指定します。改行 (new line) とは、次の行全体ではなく復帰または行送りのことです。このフォーマット指定は、拡張ログ・ファイル・アダプターにのみ適用されます。フォーマット指定 %n を使用すると、複数行にまたがるメッセージの突き合せが行なえます。

たとえば、以下のフォーマット・エントリーは、
This is a format %s with more lines%nIsn't it

以下のメッセージと一致します。
This is a format special with more lines
Isn't it

注:一致を決定するとき、スペースは重要です。1 つまたは複数のスペースで終わる行がメッセージに含まれる場合、フォーマット・エントリー内でスペースを改行指定に置き換える必要があります。

このフィックスパックに含まれる APAR

このセクションでは、3.8.0-TEC-FP04 フィックスパックが提供する APAR フィックスの説明および解決策を記載しています。

APAR:IY51605

症状:1 つのイベント・グループに多数のイベントが含まれている場合に、「要約図表」ビューに誤ったイベント・カウントが表示される。

解決策:正しいイベント・カウントが表示されるようになりました。

APAR:IY51905

症状:フィックスパック 1 HP/UX ログ・ファイル・アダプターは、/sbin/init.d ファイルで誤った命名規則を使用する。

解決策:正しい命名規則が使用されるようになりました。

APAR:IY53943

症状:waddac コマンドは、PreFilter: 接頭部が指定されていない場合に、新規構成レコードに PreFilter を設定しない。

解決策:waddac コマンドは、PreFilter: 接頭部が指定されていない場合にも、新規構成レコードに PreFilter を設定するようになりました。さらに、資料でも waddac、wsetac、および wsetadflt コマンドの正しい使用法を示すようになりました。『資料の更新内容』を参照してください。

APAR:IY53972

症状:Java® バージョンのイベント・コンソールでは、複数のオペレーターが定義されており、コンソールに割り当てられていると、構成ビューの立ち上げに長時間かかる。

解決策:構成ビューは妥当な時間内に表示されるようになりました。

APAR:IY54358

症状:LIBTECEIF バインディング・ディレクトリーが、エクスポート・ツリーの OS/400 に必要である。

解決策:LIBTECEIF バインディング・ディレクトリーが、エクスポート・ツリーの OS/400 に備えられるようになりました。

APAR:IY54345

症状:ホスト名属性が指定されており、nscd が実行されていない場合、wpostemsg コマンドは Solaris システム上でコア・ダンプを実行する。

解決策:wpostemsg コマンドはイベントを正しく送信するようになりました。

APAR:IY54432

症状:変数に区切り文字が含まれている場合に、ログ・ファイル・フォーマット・プロセッサが正しく構文解析しない。

解決策:プロセッサは正しく構文解析するようになりました。

APAR:IY54504

症状:DBCS 文字が、「タスク選択リスト (Task Choice List)」ウィンドウで誤って表示される。これは、ButtonLabel および ChoiceFile を使用しており、ChoiceFile によって使用されるファイルが、Java バージョンのイベント・コンソールとは異なるエンコードを持つマシン上で作成された場合に起きる。たとえば、ファイルが Solaris システム上で EUC_JP を使用して作成され、Java バージョンのイベント・コンソールが Windows のエンコードを使用している場合など。

解決策:Windows システム上では tec_console.cmd ファイルを、UNIX システム上では tec_console ファイルを編集し、TEC_ENCODING 環境変数を変更して、サーバー上で使用する基本エンコード・セットを指定します。

APAR:IY54505

症状:TME Event Integration Facility ライブラリーと TME Event Integration Facility 以外のライブラリーとが、プロセス・コードセットの設定に関して異なる動作をする。

解決策:資料にはこの異なる動作が記載されるようになりました。『資料の更新内容』を参照してください。

APAR:IY54538

症状:複数のイベントが、wsendresp コマンドを実行する障害チケットを実行するように選択されている場合、表示されるメッセージには、選択されたイベントのリスト内に最新のイベントに関する情報だけが含まれ、他のイベントについての情報は提供されない。

解決策:イベント ID がメッセージに追加され、それらが固有であることが保証されるようになりました。

APAR:IY54892

症状:wsetemsg コマンドが、DBCS 属性値のローカル・エンコードを認識しない。

解決策:新規の -e オプションで、使用する文字エンコードを指定できるようになりました。『資料の更新内容』を参照してください。

APAR:IY55303

症状:wsetemsg コマンドが、4096 文字より長い複合フィルターがあるイベント・グループを持つイベント・コンソールを指定すると、tec_ui_server プロセスが停止し、oserv エラーが発生する。

解決策:wsetemsg コマンドが、4096 文字より長い複合フィルターがあるイベント・グループを持つイベント・コンソールを指定しても、tec_ui_server プロセスは停止しなくなりました。

APAR:IY55414

症状:多数の引き数が exec_program 述部に渡されると、tec_task プロセスが予期せずに終了し、SIGBUS エラーが出される。

解決策:多数の引き数が exec_program 述部に渡されても、tec_task プロセスが予期せずに終了して SIGBUS エラーが出されることはなくなりました。

APAR:IY55610

症状:汎用 tecad_logfile ACP エントリーが新規の拡張機能をサポートしていない。

解決策:新規の tecad_enh_logfile プロファイル・タイプが追加され、拡張機能をサポートするようになりました。

APAR:IY55708

症状:TWS Connector は、Tivoli Enterprise Console 3.8 サーバー・コンポーネントのインストール後に機能を停止する。

解決策:LD_ASSUME_KERNEL=2.2.5 エントリーは、linux-ix86 の oserv 環境から除去されました。

APAR:IY55820

症状:ルール処理のラージ・ファクト・ファイルは、Prolog オーバーフロー・エラーの原因となり、tec_rule プロセスは終了コード 82 で終了する。

解決策:資料に表拡張プリファレンスの設定方法の説明が記載されました。『資料の更新内容』を参照してください。

APAR:IY55848

症状:TEC_EXE TASK_DBCS=TRUE が .tec_config に指定された場合、exec_program_call 述部の呼び出し時にメモリー上書きの問題が発生する可能性がある。

解決策:TEC_EXE TASK_DBCS=TRUE が指定され、exec_program_call 述部が呼び出されても、メモリー上書きは発生しなくなりました。

APAR:IY55954

症状:TME 以外のログ・ファイル・アダプターが、TISDIR 環境変数を設定しない。
解決策:TISDIR 環境変数は設定されるようになりました。

APAR:IY56166

症状:Java バージョンのイベント・コンソールは、最初に作成された後に名前変更された自動化タスクを削除できない。
解決策:Java バージョンのイベント・コンソールは、作成された後に名前変更された自動化タスクを削除できるようになりました。

APAR:IY56170

症状:bdt_timed_open は、Tivoli Enterprise Console 製品が範囲外のポートを使用するので失敗する。Tivoli Enterprise Console プロセスは、oserv からのポート範囲情報を使用しなかったため、範囲内のポートを開かず、顧客がそれらのポートをブロックする問題の原因となる。
解決策:それぞれの接続の両端はポート範囲内になりました。

APAR:IY56186

症状:bo_add_at_slotval_begin および bo_add_at_slotval_end 述部は、イベントに 3 つを超えるエレメントのリストが含まれている場合、イベント・データを変更してしまう。
解決策:bo_add_at_slotval_begin および bo_add_at_slotval_end 述部は、イベント・データを変更することはなくなりました。

APAR:IY56318

症状:データ・オブジェクトが以前にインポートされた場合、ルール・セット、ルール・パック、またはデータ・オブジェクトの、ルール・ベース・ターゲットへのインポート時に、java.lang.ClassCastException: java.lang.String 例外がスローされる。
解決策:データ・オブジェクトが以前にインポートされた場合でも、ルール・セット、ルール・パック、またはデータ・オブジェクトのインポートは適切に機能するようになりました。

APAR:IY56536

症状:Java バージョンのイベント・コンソールで、重大度および状況の列によるソートが正しく機能しない。
解決策:Java バージョンのイベント・コンソールでの、重大度および状況の列によるソートは正しく機能するようになりました。

APAR:IY56880

症状:Java バージョンのイベント・コンソールで障害チケットが実行される場合、環境変数はルール・ベースからのものと同じフォーマットにする必要がある。
解決策:Java バージョンのイベント・コンソールからの障害チケットの実行出力は、ルール・ベースと一致するようになりました。

APAR:IY57119

症状:set_force_bind 設定が有効の場合、tec_reception プロセスは、論理ホスト名ではなく物理ホスト名を使用して接続する。
解決策:set_force_bind 設定が有効の場合も、tec_reception プロセスは、論理ホスト名を使用して接続するようになりました。

APAR:IY57206

症状:commit_set 述部は、all_instances または first_instance 文節内の最終の呼び出しでない場合、適切に変換されない。
解決策:commit_set 述部は適切に変換されるようになりました。

APAR:IY57519

症状:イベント・サーバーを停止すると、一般 oserv エラーが起きる。
解決策:イベント・サーバーを停止しても、一般 oserv エラーは起きなくなりました。

APAR:IY57681

症状:複数のアダプターを同じ ID を使って開始することができてしまう。
解決策:複数のアダプターを同じ ID を使って開始することはできなくなりました。

APAR:IY57682

症状:Linux アダプター・インストール・スクリプトは、SUSE Linux 用に rc リンクを正しく生成しない。

解決策:Linux アダプターは SUSE Linux 用に正しくインストールされるようになりました。

APAR:IY57757

症状:単一ポート BDT が使用可能の場合に、Tivoli Enterprise Console UI サーバー・プロセスと RIM ホストで、Java コンソール接続問題が発生する。

解決策:単一ポート BDT に関連付けられた、Tivoli 管理フレームワークの更新済み JCF および JRIM jar ファイルは、Java コンソールに付属するようになりました。

APAR:IY57854

症状:ECO_c05_s010_extract ウェアハウス・プロセスのステップは、MS-SQL サーバー・ソース・データベースからのデータの抽出時に失敗する。

解決策:ECO_c05_s010_extract ウェアハウス・プロセスのステップは、MS-SQL サーバー・ソース・データベースからのデータの抽出時にも失敗しなくなりました。

APAR:IY57911

症状:tec_task プロセスは、/tmp ディレクトリーから接頭部 tec_t のファイルをすべて除去しない。

解決策:一時ファイルは正しく除去されるようになりました。ただし、作成したスクリプトまたはタスクが終了しない場合、ファイルはそれが終了するまでは除去されません。

APAR:IY57912

症状:erase_global 述部呼び出しは、グローバル変数を完全には消去せず、結果として tec_rule プロセスのメモリー増大になる。

解決策:erase_global 述部呼び出しはグローバル変数を完全に消去するようになりました。

APAR:IY58303

症状:非 TME ログ・ファイル・アダプターは、3.8.0-TEC-FP01 上では、3.9.0-TEC-FP01 上とは異なる構文解析をする。

解決策:資料は更新され、異なる動作の理由が記載されるようになりました。詳しくは、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR:IY58306

症状:Java Client Event Viewer のカラー・スキーム・アルゴリズムでは、CRITICAL イベントの場合、赤い背景に黒のテキストを表示するが、これは非常に読みづらい。テキストは、背景を赤から濃茶に変更する方法でしか白に変更できず、これは黒の背景の「FATAL」にかなりよく似ている。

解決策:「UNKNOWN」、「HARMLESS」、「CRITICAL」、および「FATAL」重大度の列およびセルのテキストは、白いテキストに変更され、それ以外の重大度は黒のテキストになりました。

APAR:IY58371

症状:tecad_logfile.conf ファイルにはファイルの最終文字として NULL があるが、これによって grep などのユーティリティーにはバイナリー・ファイルと見なされてしまう。

解決策:tecad_logfile.conf ファイルは、ユーティリティーからバイナリー・ファイルと見なされることはなくなりました。

APAR:IY58867

症状:Kill -HUP (シグナル 1) によって、HP-UX 11 以降では、拡張ログ・ファイル・アダプターは再始動する代わりにシャットダウンする。

解決策:ログ・ファイル・アダプターは、"kill -HUP" コマンドを何度も発行しても実行を継続するようになりました。ログ・ソースは、"kill -HUP" プロセス中にインプリメントされる tecad_logfile.conf ファイルに変更されました。

APAR:IY58910

症状:SNMP アダプターは、トラップのバースト時にイベントを消失する。この問題は、UDP 受信バッファのオーバーフローおよび着信トラップの除去が原因である。

解決策:SNMP アダプターは、トラップ・バーストの処理を向上させるために、受信バッファ・サイズを自動的に増やすようになりました。

APAR:IY58937

症状:tec_rule プロセスは、ルール・キャッシュから消えた原因イベントに対してルールが link_effect_to_cause/2 述部を呼び出すと、SIGSEGV エラーが出されて停止する。

解決策:tec_rule プロセスは、ルール・キャッシュから消えた原因イベントに対してルールが link_effect_to_cause/2 述部を呼び出しても、実行を継続します。『インストールの方法』で説明されているとおりに、既存のルール・ベースを新規の TEC_TEMPLATES/templates.wic で必ず更新してください。

APAR:IY61644

症状:UNIX ログ・ファイル・アダプターは、リフレッシュまたは始動時に、**syslog system startup** スクリプト (存在する場合) を使用しない。

解決策:UNIX ログ・ファイル・アダプターは、リフレッシュまたは始動時に、**syslog system startup** スクリプト (存在する場合) を使用するようになりました。

APAR:IY61762

症状:Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 のユーザーは、制約属性が 'Class' で、制約演算子が 'In(IN)' または 'Not in (NOT IN)' のいずれかの場合、Java バージョンのイベント・コンソールで自動化タスク定義内のイベント制約を編集できない。「イベント制約の編集 (Edit Event Constraint)」ダイアログは表示されず、例外スタック・トレースがコンソールの標準出力/標準エラーに表示される。

解決策:Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 のユーザーは、制約属性が 'Class' で、制約演算子が 'In(IN)' または 'Not in (NOT IN)' のいずれかの場合でも、Java バージョンのイベント・コンソールで自動化タスク定義内のイベント制約を編集できるようになりました。

APAR:IY62106

症状:ルール・キャッシュの消去時に、ファイル記述子がリークする。

解決策:ルール・キャッシュの消去時にも、ファイル記述子はリークしなくなり、/tmp/tec_rule へのトレースは継続するようになりました。

APAR:IY62893

症状:Windows アダプターには、LogSource からのイベントの着信時に、100 イベントごとに 30 秒以上の遅延がある。

解決策:Windows アダプターには、LogSource からのイベントの着信時にも異常な遅延はなくなりました。

APAR:IY63131

症状:wsetemsg コマンドは、2 桁以上のサーバー・ハンドルまたはイベント・ハンドル属性値を持つイベントの変更時に失敗する。

解決策:wsetemsg コマンドは、2 桁以上のサーバー・ハンドルまたはイベント・ハンドル属性値を持つイベントも変更できるようになりました。

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP03 に含まれている APAR

このセクションでは、3.8.0-TEC-FP03 フィックスパックが提供する APAR フィックスの説明および解決策を記載しています。

APAR IY37108

症状:Windows システム上で実行されているイベント・コンソールで、UI サーバーがダウンし、イベント・ビューアーを起動した場合、UI サーバー・エラー・メッセージが表示される。しかし、別のウィンドウを表示してから再度イベント・ビューアーを表示すると、イベント・ビューアーは応答せず、[Alt]+[Tab]キーを押さない限り UI サーバー・エラー・メッセージは表示されない。UI サーバー・エラー・メッセージが表示されて「OK」をクリックすると、イベント・ビューアーを使用できる。

解決策:イベント・ビューアーとエラー・メッセージを表示する別の方法を使用することにより、イベント・ビューアーとエラー・メッセージが表示されるようになりました。

APAR IY38047

症状:タスク実行 GUI に、デフォルトのタスク・ライブラリー・ポリシーで許可されているエンドポイントと管理対象ノードだけでなく、すべての管理対象ノードとエンドポイントのホスト名が表示される。

解決策:エンドポイントと管理対象ノードのうち、タスク・ライブラリー・ポリシーで指定されているもののホスト名だけが表示されます。

APAR IY38500

症状:イベント・サーバーがダウンしている場合、イベント・ビューアーが実行されていないなら、要約ビューまたは優先順位ビューを開く際にエラー・メッセージが表示されない。

解決策:エラー・メッセージが表示されるようになりました。

APAR IY39339

症状:`create_clearing_event()` 述部を使用して、イベント・クラスと同じ複数のクリアリング・イベントを作成できない。最初のクリアリング・イベントは作成されますが、それ以降のものを作成しようとしても失敗する。

解決策:イベント・クラスと同じ複数のクリアリング・イベントを作成できるようになりました。

APAR IY39758

症状:Linux システムにおいて、あるアダプターを停止した際に、その時点で `syslogd` プロセスが実行でなくても、それが開始する。

解決策:アダプター停止時に `syslogd` プロセスが実行中でない場合、それは開始しないようになりました。アダプター停止時に `syslogd` プロセスが実行中の場合は、再開されます。

APAR IY40622

症状:複数列によるソートをイベント・ビューアー上で実行すると、最初のイベントがソートされない。

解決策:すべてのイベントが正しくソートされるようになりました。

APAR IY41667

症状:`logfile` アダプターで、`LIST_OF STRING` タイプのスロットの前後のブラケット記号 (`[]`) が一重引用符 (`'`) で囲まれている。そのため、サーバー・パーサー・エラーになる。

解決策:`logfile` アダプターにおいて、ブラケット記号が一重引用符で囲まれなくなりました。ブラケットで囲んだスロットを一重引用符で囲みたい場合は、`PRINTF` ステートメントを使用して `FMT` ファイルを変更してください。たとえば、

```
-tmp_msg $1  
msg PRINTF("%s",tmp_msg)
```

APAR IY42111

症状:現在の統合機能の設計では、アダプターのコマンドにキャッシュ・ファイルに対する排他的読み取り/書き込みアクセス権が必要なため、`wpostzmsg` コマンドがスクリプトから実行されると、行き詰ってしまう。

解決策:この問題を解決するには、以下のオプションのうちいずれか 1 つを使用して構成ファイルを指定します。

- `BufferEvents=NO`
- `BufEvtPath=<specify_path_with_write_access>`

APAR IY43295

症状:ルールに英語以外の言語のテキストが含まれていると、ルールのコンパイルが失敗する。

解決策:ルール・パーサーが更新され、ルールに含まれる英語以外の言語のテキストも正しく処理されるようになりました。テキストは UTF-8 形式でなければなりません。

APAR IY45167

症状:グラフィカル・ルール・ビルダーに表示される文字の一部が正しく表示されない。

解決策:それらの文字が正しく表示されるようになりました。

APAR IY45644

症状:`SNMP` アダプターの `substr` ステートメントがイベント・ストリングの最大長を超える場合に、それによって解析されるスロットにより `malloc` が失敗し、イベントが破棄される。

解決策:警告メッセージが表示され、イベントは送信されるようになりました。

APAR IY45978

症状:`exec_program` 述部に渡されるパラメーターまたは変数のうち、2 個のバックスラッシュ (`¥¥`) を含むスロットが指定されたものは切り捨てられ、それら 2 個のバックスラッシュ (`¥¥`) は除去される。この問題は、日本語の文字のうち ASCII コードがバックスラッシュ文字と同じ `x5C` であるものに関連して発生していた。

解決策:バックスラッシュは保たれ、パラメーターまたは変数は切り捨てられなくなりました。

APAR IY46751

症状:ゲートウェイが `Tivoli Enterprise Console` サーバーと通信できない場合に `tec_gateway` トレース・ログに書き込まれる次のエラー・メッセージがわかりにくい。

Send event failed errno=35 - TEC Server down or no ports available (送信イベントのエラー (errno=35 - TEC サーバーがダウンしているか、利用できるポートがありません))

解決策:ログには、次のエラー・メッセージが書き込まれるようになりました。

Send event failed errno=35 - Cannot contact TEC Server (送信イベントのエラー (errno=35 - TEC サーバーと通信できません))

APAR IY46861

症状:クラス・フィルタに `outside` 文節が含まれているルールが使用されていて、`tell_err()` 述部が使用されている場合、`tell_err()` 述部で指定されているファイルに次のメッセージが書き込まれる。

```
*** RUNTIME 404 *** Illegal call :unknown predicate false/0.
```

解決策:このエラー・メッセージはログに書き込まれないようになりました。

APAR IY46891

症状:イベント・コンソールの Java バージョンで、表示されない管理対象ノードがある。

解決策:管理対象ノードがすべて表示されるようになりました。

APAR IY47079

症状:構成ファイルの中で `forward_event()` または `re_send_event_conf()` 述部に対して `ConnectionMode=connection_less` が指定されている場合、宛先サーバーが利用不可能なら、`tec_rule` プロセスによってイベントの処理が最大 4 分間延期される。

解決策:イベント送信処理においてイベント送信の前に宛先サーバーに対して `ping` を実行できるようにするため、`PingTimeout` および `NumberOfPingCalls` の構成キーワードが追加されました。詳しくは、『このフィックスパックの新しい内容』のセクションを参照してください。

APAR IY47646

症状:UNIX ベースのシステムで実行されている Tivoli Enterprise Console サーバーがシャットダウンされると、TME 以外のイベントは失われてしまう。

解決策:UNIX ベースのシステムにおけるイベント・サーバーのシャットダウン・シーケンス中にイベントが失われることがないように、`tec_server` プロセスが変更されました。

APAR IY47708

症状:イベント・コンソールのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) で 1 つまたは 2 つのイベントを選択した状態で「ACK」または「CLOSE」のプッシュボタンを使用すると、8 秒間そのプッシュボタンが使用できなくなる。

解決策:1 つまたは 2 つのイベントしか選択されていない場合、それらのプッシュボタンはすぐに使用できるようになりました。

APAR IY48053

症状:イベント・シンクから受け取ったイベントは、正しい形式になっていないため、状態相関関数によってドロップされる。

解決策:`tec_gateway` プロセスが修正され、状態相関関数がイベントをドロップしないようになりました。それに加えて、1 つの構成パラメーターが構成されている必要があります。詳しくは、この `Readme` ファイルの『フィックスパックについての注意』のセクションを参照してください。

APAR IY48227

症状:`rc.nfs` ファイルの中で、UNIX システムでの TME アダプターに関する自動開始情報が定義されていた。Tivoli Enterprise Console、バージョン 3.8 において、開始情報は `rc.tecad_logfile` ファイルに移されているが、自動開始情報は `rc.nfs` ファイルから除去されていないため、ログにエラー・メッセージが書き込まれる。

解決策:`rc.nfs` ファイルから自動開始情報が除去されました。

APAR IY48310

症状:ログ・ファイル・フォーマット・エディターで、パターン・マッチングが一貫性のある仕方で実行されない。

解決策:ログ・ファイル・フォーマット・エディターで、パターン・マッチングが一貫性のある仕方で実行されるようになりました。

APAR IY48565

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の 78 ページで、`wrb` コマンドの `-imptgdata` オプションが正しくない。

解決策:正しい情報については、『資料の更新内容』のセクションを参照してください。

APAR IY48723

症状:「状況を隠す (Hide Status)」アイコンにカスタム状況の列挙 ID が表示される。

解決策:状況が表示されるようになりました。アイコンの上にカーソルを置いてしばらくすると、状況に関する完全な説明文が表示されます。

APAR IY49070

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 ルール開発者ガイド」において、ルール・プロファイル・ディレクトリタイプの制限事項を説明する必要がある。

解決策:更新された説明については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY49078

症状:Tivoli Enterprise Console Java Event Integration Facility ライブラリーで、cache.dat ファイルが壊れていると TECAgent.sendEvent() の呼び出しが永久に妨げられてしまう。

解決策:壊れた cache.dat ファイルの名前が cache.file.corrupt と変更され、新しいキャッシュ (cache) ファイルが作成され、イベントがサーバーに送られるようになりました。

APAR IY49270

症状:グラフィカル・ルール・ビルダーの「条件の概要」フィールドと「アクションの概要」フィールドで、英語以外の言語のテキストが正しく表示されない。

解決策:英語以外の言語のテキストも正しく表示されるようになりました。

APAR IY49393

症状:HP Openview アダプターの TME 以外のバージョンがインストールされていて、そのインストール先ディレクトリー・パスのディレクトリー名のいずれかにスペース文字が含まれていると、次のメッセージが表示される。

```
E:\TECHPOV\BIN>Files\HP\bin\gen_lrf E:\Program Files\HP
```

```
The system cannot find the path specified
```

```
E:\TECHPOV\BIN>E:\Program\bin\ovaddobj
```

```
E:\Program\lrf\tecad_hpov.lrf
```

```
The system cannot find the path specified
```

解決策:スペース文字を含むディレクトリーにも HP Openview アダプターをインストールできるようになりました。

APAR IY49554

症状:イベント・グループの役割許可は、イベント・コンソールの GUI からは変更できるが、コマンド行からは更新できない。

解決策:役割許可をコマンド行から変更できるようになりました。たとえば、次のコマンドを使用することによって、super および senior の許可を付与されたイベント・グループが作成されているとします。

```
wconsole -assigneg -h host -u user -p password -C Console1 -E EG1 -r super:senior
```

許可を admin および user に変更するには、次のコマンドを使用します。

```
wconsole -assigneg -h host -u user -p password -C Console1 -E EG1 -r admin:user
```

APAR IY49600

症状:イベント・コンソールを使用してイベントが変更されると、tec_dispatch プロセスが異常終了する。

解決策:イベントを変更しても、tec_dispatch が異常終了しないようになりました。

APAR IY49696

症状:convert_gm_time() 述部で、指定された時刻が変換されない。

解決策:convert_gm_time() 述部が指定された時刻が正しく変換されるようになりました。

APAR IY49711

症状:Tivoli Enterprise Console の要求メッセージの BAROC 解析が失敗すると、tec_dispatch プロセスが異常終了する。たとえば、スロット属性にルール処理の予約語が設定されている場合に、この問題が発生する。

解決策:BAROC 処理が変更され、スロット属性の中で予約語を使用できるようになりました。

APAR IY49757

症状:tec_gateway プロセスが壊れたキャッシュ・ファイルをフラッシュする際に、システム・リソースのすべてを使用してしまう。

解決策:壊れたキャッシュ・ファイルが切り捨てられるようになりました。

APAR IY50024

症状:アダプターの **gencds** コマンドが CDS ファイルを生成する処理に時間がかかる。
解決策:CDS ファイルが妥当な時間内に生成されるようになりました。

APAR IY50115

症状:単一ポート・バルク・データ転送を使用していて、RIM ホストの名前が I で始まっている場合に、Java イベント・コンソールで次のエラーが生成されることがある。

RDBMS cannot be reached (RDBMS に到達できません)

解決策:Tivoli Enterprise Console 製品に updated jcf.jar ファイルを含めることにより、この問題は解決されました。

APAR IY50376

症状:IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 のリファレンス・マニュアルにおいて、デフォルトの .tec_config ファイルの中で指定されているパラメーターの一部が説明されていない。

解決策:それらのパラメーターとその説明のリストについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY50458

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリース情報」の中で、first_instance および all_instances ルール述部の説明が正しくない。

解決策:正しい説明については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY50466

症状:キャッシュ・ファイルをクリアするために空のイベントが送信されると、その空イベントも処理される。その空イベントは tec_gateway レベルで破棄されるため、それほど重要ではないが、LCF およびフレームワーク・ゲートウェイのレベルでは過負荷になる。

解決策:空イベントは処理されないようになりました。

APAR IY50550

症状:ネストした ACP プロファイルがエンドポイント・アダプターで削除されない。

解決策:ネストした ACP プロファイルがエンドポイント・アダプターで削除されるようになりました。

APAR IY50558

症状:wstopesvr コマンドが妥当な時間内に完了しない。

解決策:シャットダウン中の tec_rule の処理が変更され、シャットダウンの時間が短縮されました。

APAR IY50864

症状:ルール・トレース機能を使用する時間を延長すると、Tivoli Enterprise Console が停止する。

解決策:ルール・トレース機能の処理に含まれていた問題が訂正されたため、Tivoli Enterprise Console が停止しないようになりました。

APAR IY50866

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 ルール開発者ガイド」は、イベント転送時の BufferFlushRate パラメーターとその使用方法に関連して更新する必要がある。

解決策:この更新については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY50909

症状:以下のような環境でログ・ファイル・フォーマット・エディターが起動されると、Tivoli Management Framework の files_transfer 関数が失敗する。

1. ACF が UNIX 管理対象ノードにインストールされている。
2. TMR サーバーが Windows ベースのプラットフォームにインストールされている。
3. イベント・サーバーが UNIX 管理対象ノードにインストールされている。

次のエラー・メッセージが表示される。

FRWTE0002E 'files_transfer' operation error when saving/closing (保管/クローズ時の 'files_transfer' 操作のエラー)

解決策:ログ・ファイル・フォーマット・エディターが正しくクローズされ、エラーが表示されなくなりました。

APAR IY50978

症状:アダプター構成プロファイル (ACP) が分散配布されている場合、それに加えた変更内容が、そのプロファイルのコピーに対して加えられない。

解決策:プロファイルのコピーに対して変更が加えられるようになりました。

APAR IY51053

症状:大量の管理対象ノードが存在する場合、「タスクの実行」ウィンドウを表示させると、エラー・メッセージが表示される。

解決策:大量の管理対象ノードが存在する場合に、ウィンドウが正しく表示されるようになりました。

APAR IY51105

症状:アダプターの始動時間が、Tivoli Enterprise Console バージョン 3.6.2 アダプターの場合より長い。

解決策:アダプターの始動に必要な時間が短縮されるように処理が変更されました。

APAR IY51189

症状:DB2 製品においてデータベースの表スペースのいずれかが MRT (最低リカバリー時間) を指定して構成されている場合、**wtdbspace** コマンドの出力が正しく表示されない。

解決策:出力が正しく表示されるようになりました。

APAR IY51190

症状:re_send_event_conf() 述部で、以下の構成設定値が正しく機能しない。

- getport_timeout_seconds
- getport_timeout_usec
- getport_total_timeout_seconds
- getport_total_timeout_usec

解決策:これらの構成値が正しく実装され、以前使用されていたシステムのデフォルト・タイムアウトの代わりに使用されるようになりました。

APAR IY51251

症状:拡張アダプターに含まれている FILENAME 書式ファイル属性についての説明が不十分である。

解決策:FILENAME マッピング属性の説明と例については、後述の『拡張ログ・ファイル・アダプターの構成』のセクションを参照してください。

APAR IY51371

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリース情報」は、アダプター・フィルターによる UTF-8 データのモニターに関して更新する必要がある。

解決策:この更新については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY51376

症状:LogSources 構成キーワードが指定されていて、ファイル名にパターン・マッチング文字の疑問符 (?) が含まれている場合に、アダプターがログ・ファイルを正しく読まない。

解決策:パターン・マッチング文字を使用して指定されたファイル名が検出されるようになりました。

APAR IY51511

症状:Windows の非 TME コンソールのサイレント・インストールにおいて、コンソールの起動または cli コマンド・ファイルの中の INSTALL_DIR および JRE_DIR のエントリーが更新されない。そのため、tec_console.cmd、wconsole.cmd、wtelexport.cmd、および wtcecimport.cmd のコマンドが失敗する。

解決策:CMD ファイルの中の INSTALL_DIR および JRE_DIR のエントリーが正しく更新されるようになりました。

APAR IY51515

症状:Tivoli Enterprise Console 製品のバージョンまたはリビジョンを確認するための簡単な手段がない。

解決策:「ヘルプ (Help)」→「バージョン情報 (About)」をクリックすると、Tivoli Enterprise Console のバージョンと改訂に関する情報が表示されるようになりました。

APAR IY51534

症状:wsetemsg コマンドで、データベース中にスロットがまだ存在しない場合にスロットの値が設定されない。

解決策:スロットがクラス内に存在する場合、データベース内の `tec_t_slots_evt` 表にスロットが追加されます。スロットが存在しない場合、無効なスロットであることを示すエラー・メッセージが表示されます。

APAR IY51636

症状:接続されている Tivoli 管理リージョン内にイベント・サーバーがインストールされている場合、「タスクの実行」ウィンドウを開くと、以下のエラー・メッセージが表示される。

ECO2089E:The following Task Library Program Tags(s) failed: (以下のタスク・ライブラリー・プログラム・タグが失敗しました)

T/EC Tasks::fvaix08-region::SelectClass.

Verify the Program Tag(s) implementation defined in your tll file. (tll ファイルの中で定義されているプログラム・タグの実装を確認してください)

解決策:複数のイベント・サーバーが存在する場合に「タスクの実行」ウィンドウを開いても、エラーが出なくなりました。タスク・ライブラリーを更新してこの問題を解決することについては、『インストールおよび構成』のセクションを参照してください。

APAR IY51659

症状:デフォルトの Web サーバーが使用されていない場合に非 TME イベント・コンソールの中で情報ボタンを使用すると、HTML 情報ページが表示されない。

解決策:イベント情報の HTML ページを表示するには、Java ランタイム環境 (JRE) のデフォルト・バージョン (JRE 1.3.1) ではなく古いバージョンを使用してコンソールを起動する必要があります。JRE のインストール後に、コンソール初期化スクリプト (`tec_console` または `tec_console.cmd`) を変更して、新しい JRE パスを参照するようにしてください。この問題が発生するのは、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 に含まれていない Web サーバーを使用している場合だけです。

APAR IY51865

症状:Windows システムにおいて、`compile()` 述部が WIC ファイルを生成しない。

解決策:`compile` 述部で WIC ファイルが生成されるようになりました。

APAR IY51866

症状:Windows システム上の SNMP アダプターでドイツ語が使用されている場合に、`varbind` 情報のテキストにウムラウトが含まれていると、`barbind` の値が実際のテキストではなく 16 進数に変換されてしまう。

解決策:ウムラウトを含むテキストも正しく表示されるようになりました。

APAR IY51877

症状:`tec_compile`、`tec_consult`、および `tec_reconsult` の述部のドキュメンテーションが必要。

解決策:この更新については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY52078

症状:「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリース情報」に、`tec_config` ファイルの中に指定されたインストール・パラメーターは、`wsetesvfcfg` コマンドを使用してそれら設定する際に無視されるという情報を追加する必要がある。

解決策:この更新については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY52198

症状:16 進数または 8 進数で送信された INT32 スロットは、そのイベントについて `PARSING_FAILED` エラーになる。

解決策:INT32 スロットを 10 進数、16 進数、または 8 進数として送信して、正しく解析されるようになりました。`exec_task()` および `exec_program()` の環境で、INT32 スロットは 16 進数で表記されます。INT32 スロットを使用した場合も、タスクまたはプログラムからの転送が正しく機能するようになりました。

APAR IY52333

症状:イベント・コンソールでオペレーターを作成すると、他のオペレーターが未割り当てになることがある。

解決策:オペレーターを割り当てても、他のオペレーターが未割り当てにはならなくなりました。

APAR IY52418

症状:イベント・サーバーが `_Oracle` データベース上で実行されている場合、`wdbmaint.sh` スクリプトが実行されると、エラー・メッセージが表示されるか、または索引が更新されません。

解決策:スクリプトを実行してもエラー・メッセージが出なくなり、データベースの索引が正しく更新されるようになりました。

APAR IY52425

症状:アダプター構成機能で `-s` パラメーターが指定されているかどうかに関係なく、UNIX ログ・ファイル・アダプターが `syslog` イベントをモニターする。

解決策:アダプターが `-s` 構成パラメーターを正しく認識し、それに応じて `syslog` イベントをモニターしたり無視したりするようになりました。

APAR IY52787

症状:Java Event Integration Facility が切断されている場合 (カスタム・アダプターがイベント・サーバーにイベントを送信してすぐに切断した場合など)、キャッシュがフラッシュされない。

解決策:Event Integration Facility の切断の前に、イベントが送信され、キャッシュがフラッシュされるようになりました。

APAR IY52912

症状:trace2 が有効の場合、`tec_ui_server` プロセスが停止する。

解決策:トレース機能によって `tec_ui_server` プロセスが停止しないようになりました。

APAR IY52919

症状:イベント・データベース内にイベントが存在しなくなった後で、ルールを使用して拡張スロットを更新すると、`RIM_Failure` が生成される。

解決策:`RIM_Failure` が生成されないようになりました。その代わりに、以下のメッセージがログに書き込まれます。

Event no longer exists.(イベントは存在していません。)No updates performed on the slot (スロットで更新は実行されませんでした。)

APAR IY53048

症状:非 TME Windows アダプターのサイレント・インストールで、ウィンドウを閉じるためにユーザーの介入が必要。

解決策:非 TME Windows アダプターのサイレント・インストールは、ウィンドウを表示することなく実行できるようになりました。

APAR IY53153

症状:AIX 5.2 システムにおいて `logfile` アダプターの `LogSources` エントリーを指定すると、`syslog` パイプ・ファイルの中にイベントが残る。

解決策:イベントが読み取られ、パイプが空になるようになりました。

APAR IY53206

症状:`LIST_OF STRING` スロットが 2048 文字を超えるイベントがイベント・データベースからロードされると、`tec_dispatch` プロセスが開始する際に `SIGSEGV` エラーで停止する。

解決策:`tec_dispatch` プロセスは実行を継続し、スロットの文字のうち長すぎる部分は切り捨てられて、省略記号 (...) で置き換えられるようになりました。

APAR IY53223

症状:`generate_event()` 述部によって作成されたイベントが `drop_received_event()` によってドロップされると、`tec_rule` でメモリー・リークが発生する。

解決策:キュー内のイベントが処理された後、それらが正しくドロップされるようになりました。

APAR IY53250

症状:拡張アダプターが 1 日または 2 日の間実行した後、それを停止しようとする、次のエラーが表示される。

Command Used (使用されたコマンド)

```
"/init.tecad_logfile -s stop <adapter_id>"
```

Error Received: (受け取ったエラー)

```
"/init.tecad_logfile[21]:0403-029 There is not enough memory available now. (使用可能なメモリーが不足しています。)"
```

解決策:拡張アダプターを停止してもエラーが出なくなりました。

APAR IY53942

症状:UNIX システムにおいて、30 文字を超える `PreFilter` が指定されると `oserv` の障害が発生する。

解決策:30 文字を超える Prefilters を使用できるようになりました。

APAR IY54050

症状:イベント属性が変更されると、tec_ui_server プロセスで SIGSEGV エラーが発生する。

解決策:tec_ui_server プロセスを停止することなく、イベントが処理されるようになりました。

APAR IY54074

症状:拡張アダプターの識別名を再利用できない。再利用すると、配布は成功するが、サービスは作成または表示されない。

解決策:拡張アダプターの識別名を再利用できるようになりました。

APAR IY54092

症状:wconsole -lsoperator -a コマンドの出力にはコンソールに割り当てられているオペレーターのリストが含まれるが、wconsole -lsconsole -a コマンドの出力には含まれない。

解決策:wconsole -lsconsole -a コマンドの出力に、オペレーターのリストが含まれるようになりました。

APAR IY55329

症状:Windows 拡張ログ・ファイル・アダプターのサイレント・インストールが機能しない。

解決策:setup.iss ファイルをサイレント・インストール用に構成できるようになりました。詳しくは、『資料の更新内容』のセクションを参照してください。

APAR IY55376

症状:ACF ログ・ファイル・アダプターのインストールで、/etc/rc.shutdown ファイルの exit 0 ステートメントより後にデータが付加される。

解決策:アダプターのシャットダウン情報は、/etc/rc.shutdown ファイルの先頭に追加されるようになりました。

APAR IY55816

症状:一般コンソール・プリファレンスで「イベント・ビューアでのイベントの最大数 (Maximum number of events in Event Viewer)」オプションがゼロに設定されている場合、イベント・ビューアにすべてのイベントが表示される。

解決策:この構成オプションについては、前述の『フィックスパックについての注意』のセクションを参照してください。

APAR IY55851

症状:FILTERMODE=IN が指定されていると、長さが 0 のイベントがフィルターにかけられるため、PollConnection オプションが正しく機能しない。

解決策:PollConnection オプションにおいて、長さ 0 のイベントが送信される際にすべてのフィルター処理が無視されるようになりました。

APAR IY55852

症状:Tivoli 管理リージョンが保守モードで実行されている場合、管理コンソール以外のコンソールがイベント・サーバーに接続できない。

解決策:『フィックスパックについての注意』を参照してください。

APAR IY55866

症状:profile after アクションに -s フラグが追加されている場合、UNIX のログ・ファイル・アダプターの自動開始 (autostart) スクリプトが更新されない。

解決策:ログ・ファイル自動開始 (autostart) スクリプトが更新され、-s フラグが正しく追加されるようになりました。

APAR IY55907

症状:first_instance() 述部内に括弧が含まれているルールが正しくコンパイルされない。

解決策:first_instance() 述部内に括弧が含まれているルールは正しくコンパイルされるようになりました。

APAR IY56170

症状:ポート範囲機能が有効になっている場合に tec_reception プロセスが tec_gateway に接続すると、bdt_timed_open エラーで失敗する。

解決策:tec_reception プロセスが、oserv プロセスによって設定されたポート範囲を使用するようになりました。

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP02 に含まれている APAR

このセクションでは、3.8.0-TEC-FP02 フィックスパックが提供する APAR フィックスの説明および解決策を記載しています。

APAR IY13071

症状:AS/400 メッセージのキューへの書き込み、除去、または別のプロセスによる新規メッセージの書き込みの場合、アダプターは最初のメッセージ・イベントを送信しない。

解決策:AS/400 アダプターはキュー内の各メッセージの日付、時刻、およびメッセージ長をチェックし、メッセージが変更されたかどうかを確認するようになりました。メッセージが変更された場合、新規イベントが送信されます。

APAR IY20113

症状:2 つの Tivoli リージョンが相互に接続され、両方のイベント・サーバーが構成ファイルにリストされている環境で **wpostmsg** コマンドを実行すると、1 次イベント・サーバーがシャットダウンした後サーバーに送信される最初のイベントがキャッシュに入れられる。このイベントは、2 次イベント・サーバーで受け取られなければなりません。

解決策:Event Integration Facility (EIF) 環境変数が正しくリセットされていませんでした。これが原因で最初のイベントがキャッシュに入れられていました。環境変数が正しく設定されるようになりました。

APAR IY20446

症状:「**選択されたイベントの重大度の変更**」タスクで、イベントに関連付けたホスト名が無効な名前の場合、タスクの実行を停止できなくなる。

解決策:イベント・コンソールが、選択されたイベントに関連付けられているホスト名が有効な名前かどうかを検査するようになりました。無効な場合、Current Host 値は設定されず、ユーザーは「使用可能なホスト」リストから有効なホスト名を選択する必要があります。

APAR IY22158

症状:**tecadini.sh stop** コマンドを発行すると、OS/2 アダプター・プロセス ID ロック・ファイルが削除されない。

解決策:システムをシャットダウンすると、アダプターはファイルをアンロックするので、ファイルを削除することができます。

APAR IY22689

症状:ユーザーがメッセージを作成してそれをキューに送信すると、AS/400 アダプターが正しくシャットダウンされない。

解決策:無効なエントリーの使用を避けるために、アダプターがメッセージ・フィールド長を検査するので、アダプターは正常にシャットダウンされます。

APAR IY30915

症状:-S オプションを指定したアダプターを配布し、アダプターを再始動した後、**tecad_logfile** プロセスが再始動しない。

解決策:アダプター構成プロファイル (ACP) の依存関係が修正され、-S オプションを指定してもアダプターを再始動できるようになりました。

APAR IY31847

症状:ログ・ファイルの日付が変更されると、ログ・ファイル内のすべてのイベントがイベント・サーバーに送信される。

解決策:NewLogBasedOn キーワードは、ログ・ファイルのタイム・スタンプが変更されてもサイズが同じであるときに、そのファイルを新規とみなすかどうかを指定します。このキーワードについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY31930

症状:イベントが 1 つのイベント・サーバーから別のイベント・サーバーに転送されると、**server_path** オブジェクト内の **date_reception** フィールドの日付の値がすべて無効になる。

解決策:イベント転送機能が修正され、正しい日付の値を保管できるようになりました。

APAR IY32758

症状:**all_clear_targets** 述部が呼び出される時、クリアされるべきでないイベントがクリアされる。

解決策:**all_clear_targets** 述部は、イベントをクリアする前にイベントをチェックして制限を確認するようになりました。

APAR IY34037

症状:NT_DUPLICATE_NAME クラスは、インストールされたフォーマット・ファイルには定義されている。

TECAD_NT.baroc ファイルには含まれていない。

解決策:更新された TECAD_NT.baroc ファイルがデフォルト・ルール・ベースでインストールされるようになりました。このフィックスを使用するにはルール・ベースを再コンパイルし、再ロードする必要があります。

APAR IY34268

症状:TISDIR 環境変数が Tivoli Management Framework 環境で正しく設定されていないためにタスクの結果を tec_dispatch プロセスに報告されない。

解決策:tec_task プロセスが修正され、tec_dispatch プロセスにタスクの結果を報告するようになりました。

APAR IY34293

症状:tec_console -E <Event_Group_Name> コマンドを発行するとき、イベント・グループ名にスペースが含まれているとエラーが生成される。

解決策:tec_console コマンド名で、スペースを含むイベント・グループ名を使用できるようになりました。

APAR IY34564

症状:複数リージョン・アダプターを初期化するとき set_multi_lang_format プロシージャ呼び出しで相対パス名を使用すると 覚 file not found 媒 エラーが生じるため、アダプターを正しくシャットダウンできない。

解決策:set_multi_lang_format プロシージャを呼び出す前に現行作業ディレクトリーを変更するように init.tecad_logfile スクリプトが更新されました。

APAR IY35199

症状:commit_* の後に左括弧がある述部を正しく構文解析できない。たとえば、commit_*(など。

解決策:ルール・コンパイラーが修正され、commit_* 述部を正しく構文解析できるようになりました。

APAR IY35286

症状:3.7.1-TEC-0031E をインストールした後、%s を含む printf ステートメントを使用して FMT ファイルから CDS ファイルを生成できない。

解決策:%s が単純ストリングと見なされるようになったため、CDS ファイルが生成されるようになりました。IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド で説明されているように、 %[lengths] は挿入できません。挿入できるのは %s のみです。

APAR IY36164

症状:副述部の展開エラーのために tec_compile 述部が失敗するため、tec_compile 述部を使用する規則を正常にコンパイルおよび実行できない。

解決策:tec_compile 述部を使用するルールは正常にコンパイルおよび実行できるようになりました。

APAR IY36538

症状:200 を超えるタスク結果がイベント・ビューアーにロードされると、コンソールのパフォーマンスが低下する。

解決策:データベース呼び出しが修正され、どのイベントも、より効率的に検索できるようになりました。

APAR IY36663

症状:コマンド行インターフェースから wconsole コマンドを実行するとグラフィカル・ログイン画面が生成され、エラー・コードを戻さない。

解決策:無効なパスワードが指定されると、コマンドはゼロ以外の戻りコードで終了するようになりました。

APAR IY37101

症状:イベント・コンソールの「選択済み」>「タスク実行」メニューを開くと、最初の 100 のタスク・ライブラリー・エントリーしか表示されない。

解決策:「選択済み」>「タスク実行」メニューを開くと、すべてのタスク・ライブラリー・エントリーが表示されるようになります。

APAR IY37669

症状:イベントが送信されるたびに、アダプター・トレース・ファイルに 2 つのエントリーが記録される。

解決策:アダプター・トレース機能は正常に各イベント・エントリーを記録するようになりました。

APAR IY38429

症状:データベース・インストール・アシスタントの wdbinstall.sh スクリプトによって指定のディレクトリーにファイルが生成されますが、ディレクトリー名にスペースが含まれているとスクリプトが失敗する。

解決策:データベース・インストール・アシスタントによって使用されるスクリプトは、名前に 1 つ以上のスペースが含まれているディレクトリーに存在しても、正常に実行されるようになりました。

APAR IY38591

症状:`tec_task` プロセスは、大きな `server_path` スロット値を持つイベントをイベント・サーバーに転送するときに、211 によって不正終了し、コア・ファイルを生成する。

解決策:大きな `server_path` スロット値を含むイベントが正常にイベント・サーバーに転送されます。スロット値が内部限界値を超えると、`tec_rule` ログ・ファイルにエラー・メッセージが生成され、イベント・サーバーは引き続き正常に機能します。

APAR IY38909

症状:`PARSING_FAILED` エラーが生成されるときに、理由コードが提供されない。

解決策:`PARSING_FAILED` エラーが生成されるとき、エラー・コードが戻されるようになりました。

APAR IY39348

症状:`wrb-encoding` コマンドを使用して UTF8 以外のルールおよびクラスをインポートするときにエラーが生成される。

解決策:`wrb` コマンドは、サポートされている UTF8 以外のすべてのコード・セットから、ルールを正しくインポートします。`wrb` コマンドについて詳しくは、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY39436

症状:イベントの文字が `¥n` で終わると、UNIX アダプターが `NULL` イベントを生成する。

解決策:イベントの文字が `¥n` で終わると、アダプターは `¥n` を正しい区切り文字 `¥0` に置き換え、`NULL` イベントは生成されません。アダプターはイベント区切り文字として、`¥0` を付加するようになりました。

APAR IY39819

症状:アクティブになっているイベント・コンソールの合計は同じなのに、`tec_ui_server` プロセスのメモリー使用量が増大する。

解決策:イベント・コンソールの数が変わらなければ、`tec_ui_server` プロセスは余分なメモリーを消費しなくなりました。

APAR IY39974

症状:IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 にアップグレードして `wrbupgrade` コマンドを実行した後、カスタム・ルール・ベースが機能しなくなる。

解決策:カスタム・ルール・ベースが正常にアップグレードされるようになりました。

APAR IY40173

症状:ゲートウェイが多数のイベントを保管すると、`tec_gateway` プロセスで大量のメモリーが使用される。

解決策:ゲートウェイは着信イベントをより効率的にキューに入れるようになり、プロセスによって使用されるメモリーの量を最小化できるようになりました。高い比率で着信イベントを受信するときのメモリーの増加は、操作時に発生する通常の増加に加えて 1 メガバイトまたは 2 メガバイトまでに制限されるようになりました。

APAR IY40180

症状:`tec_gateway` プロセスにはエラー・トレースの機能がないため、利用できるポートがない場合にエラーが検出されない。すべてのポートが `TIME_WAIT` 状態になっている場合、利用可能なポートはありません。

解決策:現在、ゲートウェイに対するトレースが利用可能になりました。`tec_gateway` プロセスのエラー・トレースについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY40095

症状:イベント・コンソールのログイン・ポップアップ・ウィンドウにおいて、NLS キーボード・マッピングを使用して入力されたロケール文字が、受け付けられない。

解決策:『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY40328

症状:`TEC_DB_deferred_insert()` ルーチンでデータベース挿入エラーが発生すると、`tec_reception` プロセスと `tec_dispatch` プロセスの両方で `SIGSEGV` エラーが発生する場合がある。

解決策:メモリーの不正な参照により `SIGSEGV` エラーが発生していました。そのメモリーの不正な参照は、RIM との接続を切断する際、または再接続する際に発生しました。問題は解決されています。

APAR IY40448

症状:イベント・ストーム時に、重複したイベントがデータベースに挿入されることがある。イベントの重複により重複キーのエラーが発生したり、イベント・サーバーにおいてイベントが重複して表示されます。

解決策:イベント・ストーム条件下で重複イベントがデータベースに挿入されることがなくなりました。 イベント・サーバーにおいて重複イベントが表示されることはありません。

APAR IY40453

症状:スロット値の中に等号 (=) を含むイベントが、イベント・サーバーの再始動時にルール・キャッシュに入れられない。

解決策:イベントのスロット値に等号 (=) が含まれている場合、イベント全体を二重引用符で囲むことにより、イベントが正しく解析されるようになります。

APAR IY40576

症状:「タスクの実行」ウィンドウの「ターゲット・ホスト」ウィンドウにおいて、Tivoli リージョンのエンドポイントのうち表示されないものがある。ホスト名のリストに、イベント・コンソールで選択済みタスクにあるすべてのホスト名が表示されるとは限りません。以前、選択されたイベントに対してタスクを実行するためのホスト名のリストでは、エンドポイントは 100 個以下という制限がありました。現在では、100 個を超えるエンドポイントがリストに表示されますが、それでもすべてのエンドポイントが含まれているわけではありません。

解決策:現在では、Tivoli リージョン内のすべてのエンドポイントが正しく表示されるようになっています。

APAR IY40871

症状:「ターゲット・ホスト」ウィンドウ (「タスクの実行」ウィンドウから選択される) に、Tivoli リージョン内のエンドポイントの一部が表示されない。

解決策:以前、選択されたイベントに対してタスクを実行するためのホスト名のリストでは、エンドポイントは 100 個以下という制限がありました。現在では、100 個を超えるエンドポイントが表示可能です。

APAR IY41161

症状:イベント・キャッシュに含まれていないイベントが、**wsetemsg** コマンドの実行により変更された場合、変更されたスロット値が正しくない。

解決策:整数値ではなく列挙型のスロット値を **tec_dispatch** プロセスに渡すよう、ユーザー・インターフェース (UI) サーバーが変更されました。

APAR IY41202

症状:「使用可能なオペレーター」ウィンドウに、未割り当てのオペレーターが表示されない。

解決策:オペレーター名が未割り当てになると、そのオペレーター名が「使用可能なオペレーター」に移されるようになりました。

APAR IY41312

症状:Linux オペレーティング・システム (IX-86 および S/390) 上でデータベース・インストール・アシスタントが実行されている場合、次のエラーが生成される。

```
./wdbinstall.sh:./jre/linux-ix86/jre/bin/java:No such file or directory
```

解決策:データベース・インストール・アシスタントのビルド・プロセスが、Java Runtime Environment (JRE) を正しくパッケージするように変更されました。

APAR IY41318

症状:**wsetemsg** を実行して、カスタム・スロットを使用するイベントを更新すると、次のエラーが生成される。
スロット名の検証中にデータベース・エラーが発生しました。

解決策:現在では、すべてのスロット値が検証されるまで、データベース接続が保持されるようになりました。

APAR IY41391

症状:アダプターに対する始動パラメーターが指定された場合、その始動パラメーターによって指定される時間枠内にそのアダプターによってロック・ファイルが更新されるまで、**syslog** がリフレッシュされない。

解決策:アダプターが完了するまで、**syslog** のリフレッシュが遅延されるようになり、新しいイベントが失われなくなりました。

APAR IY41395

症状:IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド には、Senior 特権以上を付与されたアドミニストレーター・アカウントがアダプターを開始する必要があるという記述がありますが、これは間違っています。

解決策:この APAR については、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY41444

症状:タイム・ゾーンが British Summer Time (英国夏時間) に設定されている場合に、イベント・コンソールで、イベント日付受信時刻が、夏時間に合わせて調整されない。

解決策:現在では、イベント・コンソールで Europe/London タイム・ゾーンの定義がサポートされるようになりました。TEC_CONSOLE_TZ 環境変数を Europe/London に設定する必要があります。以下に例を示します。

```
TEC_CONSOLE_TZ=Europe/London
Export TEC_CONSOLE_TZ
```

APAR IY41567

症状:カスタム・イベント・ソースからイベントを読む際に、メモリー・リークが発生して Solaris アダプターが不正に終了し、コア・ファイルが生成される。

解決策:アダプターのメモリー・リークが解消されました。

APAR IY41592

症状:AIX オペレーティング・システムのシャットダウン時に、**init.tecad_logfile stop** コマンドを実行することなく、アダプター・プロセスが終了する。

解決策:/etc/rc.shutdown スクリプトに **init.tecad_logfile stop** コマンドが追加されました。

APAR IY42131

症状:.tec_config ファイルの中で TEC_EXECUTE_TASK_DBCS=TRUE オプションが設定されているかどうかを示す環境変数を設定することが必要です。

解決策:.tec_config ファイルの中で TEC_EXECUTE_TASK_DBCS=TRUE オプションが設定されている場合、TEC_EXECUTE_TASK_DBCS=TRUE という環境変数が設定されるようになりました。

APAR IY42199

症状:管理対象ノードに対するユーザー・インターフェース (UI) サーバー・コンポーネント・アップグレードにおいて、3.7.1-TEC-FP04 以来 IBM Tivoli Enterprise Console 製品に含められた更新済みメソッドの一部がインストールされない。

解決策:管理対象ノード・アップグレード・インストール用の後処理スクリプトが更新され、新しいメソッドがすべてインストールされるようになりました。

APAR IY42235

症状:アドミニストレーター名に 2 バイト文字 (DBCS) が使用されている場合、イベント・コンソールでその名前が正しく表示されない。Windows システムではアドミニストレーター名のフィールドが空ですが、UNIX システムではいくつかの四角で表示されます。

解決策:現在では、DBCS 環境でアドミニストレーター名が正しく表示されるようになりました。

APAR IY42242

症状:グラフィカル・ルール・ビルダー (GRB) によって生成される first_duplicate ルールが失敗する。ルールを正しく解析するためには、commit_rule 述部の前にスペースを追加する必要があります。

解決策:commit_rule 述部の前にスペースが追加されました。

APAR IY42371

症状:DISPLAY 値が :0.0 の場合、カスタム・ボタンによって起動されるコマンドにその DISPLAY 値が渡されないため、ユーザーはリモート・コンソール上でカスタム・ボタンを使用できない。

解決策:現在では、カスタム・ボタンによって起動されるプロセスに、コンソールからすべての環境変数が渡されるようになりました。

APAR IY42395

症状:Sybase データベースの照会のために **wtdbspace** コマンドを実行すると、次のエラーが発生する。
The RDBMS server call has failed.

解決策:正しい装置に対して照会を実行するように、コマンドが修正されました。

APAR IY42462

症状:Linux エンドポイントにアダプターを配布した後、システムがシャットダウンする前にそのアダプターが正しく停止しない。そのため、システムの再始動時に `syslog` が開始せず、システムの起動時間が長くなります。さらに、`syslog.conf` ファイルに無効なエントリーが書き込まれます。

解決策:システムの再始動時にアダプターが正しくシャットダウンするようになり、無効なエントリーが `syslog.conf` ファイルに書き込まれないようになりました。

APAR IY42463

症状:複数のネットワーク・アダプターがインストールされているオペレーティング・システムにおいて、イベント・コンソールが起動しない場合がある。それは、オペレーティング・システムにバインドされた順序によります。

解決策:Java Client Framework (JCF) の更新済みバージョンが提供されたため、ネットワーク・アダプターが複数あるシステムの機能が改善されました。『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY42602

症状:書式制御ストリング定数に 38 文字以上の 2 バイト文字 (DBCS) が含まれている場合、`win_gencds` プロセスが失敗し、Dr. Watson エラーが生成されることがある。

解決策:38 文字以上の 2 バイト文字 (DBCS) を含む書式制御ストリング定数がサポートされるようになりました。

APAR IY42661

症状:イベント・キャッシュにもはや含まれていないイベントに対して、`wsetemsg` コマンドを実行して複数の整数または列挙型のスロット値 (`status` や `severity` など) を変更した場合、イベント・データが破壊される。

解決策:`wsetemsg` コマンドでは、更新するスロット値ごとに一時スペースを割り振ることにより、データが破壊されないようになりました。

APAR IY42694

症状:AS/400 オペレーティング・システムから受信したイベントに、開き括弧または閉じ括弧が含まれている場合、イベント・サーバーで `PARSING_FAILED` エラーが発生することがある。

解決策:現在では、AS/400 アダプターにおいて括弧の存在を調べ、括弧が見つかったなら、値を二重引用符で囲むようになりました。

APAR IY42754

症状:日本語ロケールで生成された `TEC_DB` イベントが、イベント・コンソールで正しく表示されない。

解決策:入力イベントがすでに UTF8 形式になっている場合、`tec_dispatch` プロセスが Event Integration Facility (EIF) に通知することにより、UTF8 変換が複数回実施されることがなくなりました。

APAR IY42774

症状:AIX 5.1 オペレーティング・システムにおいて、`tecad_logfile` プロセスでメモリー・リークが発生する。

解決策:メモリー・リソースをもっと効率よく管理するように、アダプターが変更されました。

APAR IY42831

症状:スロット属性が REAL データ・タイプである有効なイベントの開始時に、`PARSING_FAILED` エラーを受信することがある。

解決策:C ランタイム `errno` の不正な初期設定が修正され、正しく初期設定されるようになりました。

APAR IY42852

症状:Sybase または MSSQL データベースに対して `wtdbpace` コマンドを実行した場合、IBM Tivoli Enterprise Console データベース装置または Master (マスター) データベース装置について間違ったサイズが報告されることがある。

解決策:`wtdbpace` コマンドにおいて、これら 2 つの装置のサイズを計算するために同じ変数を使用していました。現在では、サイズの計算において、2 つの異なる変数を使用することにより、各装置を正しく参照することができるようになりました。Sybase データベース用の変数は `db_sybtec_size`、MSSQL データベース用の変数は `db_msqtec_size` です。

APAR IY42976

症状:`re_send_event_conf()` 述部を使用してイベントを転送する際に、`tec_rule` プロセスでメモリー・リークが発生する。

解決策:イベント書式設定時に割り振られた一時記憶域が解放されていませんでした。現在では、イベントの書式設定において、不要になった一時記憶域が除去されるようになりました。

APAR IY42977

症状:

イベントの受信時に、ネットワーク接続の切断が発生した場合、IBM Tivoli Enterprise Console サーバーはしばらくの間イベントの処理を中断します。

解決策:接続に問題がある場合は、ネットワークからのイベントの受信中に、tec_reception プロセスが無期限にブロックする可能性があります。ネットワークに問題がある場合、イベント受信のための構成可能なタイムアウトを受け入れるように、受信ロジックを変更されました。.tec_config ファイルに、新たに tec_rcv_timeout 構成パラメーターが追加されました。このパラメーターについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY43147

症状:イベントの中で CTRL-E 制御文字を使用すると、tec_dispatch プロセスがセグメンテーション違反で終了することがある。

解決策:CTRL-E 制御文字を使用するイベントは許可されておらず、PARSING_FAILED イベントとして検出されるようになりました。

APAR IY43235

症状:ロケール特有の小数点文字を含む REAL データ・タイプの属性が使用されている場合、tec_dispatch プロセスがセグメンテーション違反で終了することがある。

解決策:REAL タイプ属性値は、IBM Tivoli Enterprise Console サーバーに、C ロケール (POSIX) 10 進数区切り文字 (.) を使用して渡されましたが、C ロケールを使用して内部的に処理されませんでした。現在、REAL タイプ属性は、内部では常に C のロケールを使用して処理されるようになりました。

APAR IY43249

症状:3.8.0-TEC-FP01 の README ファイルには、ProcessPriorityClass 属性がアダプターに適用されるかどうかに関して、誤解を生じる記述がありました。

解決策:ProcessPriorityClass 属性については、『インストールおよび構成』のセクションを参照してください。

APAR IY43274

症状:3.8.0-TEC-FP01 をインストールすると、re_send_event_conf 述部がイベントを転送しなくなる。

解決策:イベント転送時に、Event Integration Facility (EIF) が正しく初期設定されていませんでした。現在では、イベント転送時に EIF が正しく初期設定されるようになっています。

APAR IY43294

症状:CDS ファイルの中の演算子 PREFIX エントリーがマッチングしない。

解決策:CDS エントリーの不正な解析処理が訂正されました。演算子 PREFIX エントリーが正しくマッチングするようになりました。

APAR IY43312

症状:tec_gateway プロセスは、リモート・プロシージャー・コール (RPC) のスレッドを使い尽くしてしまう場合があります。

解決策:GWThreadCount tec_gateway パラメーターが新たに追加されました。新規の GWThreadCount パラメーターについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY43346

症状:HP OpenView または SNMP アダプターの CDS ファイルの中で \$VARBIND 変数を使用すると、特定のトラップを処理する際にアダプターがコア・ダンプすることになる。

解決策:現在では、long VARBIND 型変数の関係するトラップが、内部エラーなしで処理されるようになりました。現在の最大サイズは、4096 文字以内です。

APAR IY43376

症状:アダプターの書式設定ファイルで %s* という文字列を使用すると、メッセージが正しくバインドされない。

解決策:文字列 %s* を使用した場合の解析が正しくマッチングするようになりました。

APAR IY43428

症状:Oracle オペレーティング・システムにおいて、オペレーティング・システムの認証を使用すると、データベース・インストール・アシスタント作成スクリプトが失敗する。

解決策:詳しくは、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY43473

症状:属性値の中に埋め込み制御文字が含まれていると、イベント・コンソールでその属性値にボックスが表示される。
解決策:「形式化された名前と値の表示」チェック・ボックスをチェックすると、埋め込み制御文字は表示されません。
このチェック・ボックスは、デフォルトでチェックされています。

APAR IY43502

症状:**wtdbclear.pl** コマンドに **-D** フラグ (デバッグ・フラグ) を指定して実行すると、イベントがクリアされない。
解決策:デバッグ出力が、STDOUT ではなく RDBMS インターフェース・マネージャー (RIM) 接続に正しく送られていました。現在では、デバッグ出力が STDOUT に送られるようになっています。

APAR IY43799

症状:**wsetmsg** コマンドで、1 つのイベントを何度も確認 (ACK) に設定することが可能です。
解決策:イベント状況を複数回 ACK に設定することは、デフォルトでは許可されなくなりました。すでに使用が ACK であるイベントを確認するには、**-f** フラグを使用することが必要です。

APAR IY44060

症状:3.8.0-TEC-FP01 の適用後、/tmp/tec_rule ファイルの中に次のエラー・メッセージが表示される。

Apr 23 11:55:12 tec_rule:17384 ERR re_queue_task:Event under analysis dropped, task monitor set to NO.

解決策:このメッセージは、解析中のイベントが、関連するタスクの実行前に除去された場合に生成されます。
これはエラー・メッセージではないため、そのメッセージ・レベルがエラーから警告に変更されました。デフォルトでは、メッセージは生成されません。

APAR IY44093

症状:UNIX ログ・ファイル・アダプターの **Logsources** ファイルのブランク行が、書式設定ファイル中のクラス (変数なし) にマッチングされる。その結果、ブランク行だけのイベントがイベント・サーバーに送られていました。
解決策:**Logsources** ファイルの中のブランク行は無視されるようになり、イベント・サーバーに送られることがなくなりました。

APAR IY44231

症状:ルール・キャッシュがいっぱいになると、内部生成のイベントが除去される。
解決策:ルール・キャッシュがいっぱいになった場合に内部生成イベントが、強制的にルール・キャッシュをクリーニングして、内部生成のイベントのための余地を生成するようになりました。

APAR IY44309

症状:ルール・ベースに含まれる **BAROC** イベント・クラスと列挙型の名前が同じ場合、そのルール・ベースのコンパイルとロードは正常に終了しますが、イベント・サーバーが開始されない。
解決策:イベント・クラスと列挙型を同じ名前にすることはできません。名前が同じイベント・クラスと列挙型が含まれるルール・ベースをコンパイルしようとすると、コンパイラーがエラーを生成します。

APAR IY44417

症状:イベントを低速のネットワーク接続で送信すると、**postmsg.exe** コマンドがエラー・メッセージを生成する。
解決策:構成ファイルで指定する **getport_timeout_parameters** を **postmsg.exe** コマンドで使用できるようになりました。
以下に例を示します。 **postmsg -f <file.conf> <event information>**

APAR IY44435

症状:Sybase に対する **wtdbclear** コマンドではエラーの検出が行われず、イベントのクリアに失敗します。
解決策:Sybase に対するストアード・プロシージャの問題が修正されました。この変更を有効にするには、データベース・インストール・アシスタントを使用して IBM Tivoli Enterprise Console データベースを再インストールする必要があります。

APAR IY44517

症状:HP-UX システムの場合、ルール・ベースのトレースが使用可能になると、あるいは **convert_local_time** または **get_local_time** 述部が呼び出されると、/TMP/KIRKDB.txt が作成され、このファイルがルールの処理につれて増大し続ける。
解決策:\$BINDIR/TME/TEC/interpreter/lib/unix/UnixTime.wic ファイルからデバッグ出力が除外されました。

APAR IY44562

症状:「要約図表」ビューと「構成」ビューを切り替えると、イベント・コンソールでメモリー・リークが発生する。
解決策:無関係なオブジェクトが割り振られていたためメモリーが増大していました。余分なオブジェクトが取り除かれました。

APAR IY44566

症状:Informix データベースの場合、**wtdb space** コマンドで、BLOB 表スペースについて誤った情報が報告される。
解決策:**wtdb space** コマンドのロジックの問題が修正されました。BLOB 表スペースの情報が正しく計算されるようになりました。

APAR IY44577

症状:Tivoli Management Framework DependencyMgr:acpep-ep ライブラリーへの不必要な依存関係のために、アダプターが配布されるとエンドポイントにライブラリーが配布される。使用製品の制約上、Tivoli Management Framework の最新ライブラリーを配布されたくない場合があります。
解決策:ライブラリーの互換バージョンは IBM Tivoli Enterprise Console アダプターのエンドポイントで使用できるため、依存関係が除去されてライブラリーはアダプターと一緒に配布されなくなりました。

APAR IY44924

症状:IBM Tivoli Enterprise Console 製品が再始動して `add_to_repeat_count` 述部が呼び出されると、`TEC_Start` イベントで RIM エラーが発生する。
解決策:この問題は、イベント・サーバーの始動時に `last_modified_time` の値が初期化されていたことが原因でした。この値は正しく初期化されるようになりました。

APAR IY44974

症状:イベント・コンソールで「タスクの実行」を選択すると、`oserv` デーモンが実行されているにもかかわらず次のエラー・メッセージが表示される。

```
ECO2069E:The oserv stopped running.(oserv は実行を停止しました。)Please restart the console after the oserv is running.(oserv が実行したらコンソールを再始動してください。)
```

解決策:Tivoli リージョンで定義されている空のタスク・ライブラリーが正しく処理されていませんでした。イベント・コンソールでこのライブラリーの処理が正しく行われるようになったため、エラー・メッセージは表示されなくなりました。

APAR IY45045

症状:FilterMode=IN にすると、AS/400 アダプターのフィルター操作が機能しない。
解決策:EBCDIC から UTF8 への変換が原因のフィルター処理の問題が修正されました。

APAR IY45048

症状:別の IBM Tivoli Enterprise Console Server から転送されてきたイベントに対してカスタム・ボタンでスクリプトを実行すると、次のエラー・メッセージが表示される。

```
ECO2007E:選択されたコマンドを実行できませんでした。
```

解決策:転送されるイベントの `server_path` 属性は空と想定されていましたが、これが空でなかったために処理エラーが起こっていました。空でない `server_path` 属性がイベント・コンソールで正しく処理されるようになりました。

APAR IY45119

症状:Windows 非 TME アダプターの場合、エラー・ロギングを使用可能にすると次のエラー・メッセージが生成される。

```
Unable to initialize TIS table
```

解決策:Windows 非 TME アダプターがインストール時に `TISDIR` 環境変数を設定していませんでした。インストールで `TISDIR` 環境変数が設定されるようになりました。ただしシステムを再始動する必要があります。

APAR IY45389

症状:デバッグ・モードで実行されるアダプターが行うイベントのマッチングが、標準モードで実行されるアダプターの場合と同様ではない。

解決策:ビルド環境におけるファイルは自動的に更新されませんでした。このため、アダプターがデバッグ・モードと標準モードで同じようにイベントのマッチングを行なうことができませんでした。

APAR IY45458

症状:システムのリブート後、lcfld デーモンの開始で環境変数が誤って設定され、イベント・データを読み取れない。

解決策:『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY45602

症状:ログ・ファイル・アダプターのエラー・ファイルのトレースを使用可能にすると、イベントが正常に送信されたときでも IBM Tivoli Enterprise Console アダプターが次のメッセージを生成する。

Event not sent to TEC

解決策:イベントが正常に送信されたときにエラー・メッセージが表示されないように、リターン・コードの誤ったチェックが修正されました。

APAR IY45756

症状:HP-UX システムで Sybase データベースに対して **wtdbSPACE** コマンドを実行すると、次のエラーで失敗する。

RIM access error -quitting

解決策:**wtdbSPACE** コマンドのこの問題は、誤った番号変換が原因でした。正しいフォーマットに番号が変換されるようになりました。

APAR IY45807

症状:イベントが転送されるたびに **tec_rule** プロセスによってメモリーが増大し続ける。

解決策:一時割り振りが解放されないことで起こる問題が修正されました。

APAR IY45915

症状:Windows ログ・ファイル・アダプターが SAP イベントを送信しない。

解決策:SAP イベントにはサブストリングが 91 必要なため、メッセージに含まれるサブストリングが 64 という制限は SAP イベントにとって小さすぎた。サブストリング数の新しい制限は 128 です。

APAR IY46560

症状:Windows ログ ファイル アダプターが正常に開始されてもメッセージ全体が表示されない。

解決策:フォーマット・ファイルを処理するときに起こる論理エラーが修正され、Windows ログ・ファイル・アダプターのフォーマット・ファイルでのエラーが訂正されました。

APAR IY46725

症状:有効なイベントが **PARSING_FAILED** エラーによってイベント・サーバーから廃棄される。

解決策:着信イベントのタイム・スタンプの **tec_rule_cache_full_history** 構成パラメーターに対するチェックが正しく行われていなかったため、廃棄されるイベントがありました。着信イベントのタイム・スタンプはチェックされなくなりました。

APAR IY46770

症状:イベント・コンソールに **wsendresp** コマンドによって生成されるポップアップ・メッセージが表示されると、ポップアップ・メッセージをクローズするまでイベント・コンソールでアクションを実行できない。

解決策:ポップアップ・メッセージの属性が変更され、この属性はモーダルではなくなりました。

APAR IY46800

症状:イベント処理時に接続の問題が起きた場合に **tec_put_event()** Event Integration Facility (EIF) アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 呼び出しを使用すると、セグメンテーション違反になることがある。

解決策:ネットワークに問題があるときにメモリー割り振りを無関係に解放していたことがこの問題の原因です。メモリーが解放されるのは一度だけになりました。

APAR IY46805

症状:HPUX 11 システムでグラフィカル・ルール・ビルダー (GRB) を使用してルールを編集すると、oserv 障害になる。
解決策:バージョン固有のシステム・ライブラリーを使用していたことがこの問題の原因です。GRB はバージョン固有のシステム・ライブラリーに依存しなくなりました。

APAR IY46977

症状:トレースを使用可能にしないでコンパイルされるルールは、commit_* 述部が使用されていると解析エラーになる場合がある。

解決策:ルール・コンパイラーが、ルールの解析時にバックスラッシュ (¥) を誤って処理していました。このため commit_* 述部が、バックスラッシュが含まれるストリングの一部として解析されていました。

APAR IY47297

症状:外部ファイルからロードしたタスク選択リストがイベント・コンソールに表示されない。

解決策:イベント・コンソールが、外部ファイルに維持されている選択リストを正しくロードするようになりました。

APAR IY47431

症状:tec_rule プロセスは flush_if_ack NetView ルールを処理中に終了コード 211 で終了する。

解決策:ストリングが誤っていたために、netview.rls ファイルの中の述部が書き直されました。

APAR IY47442

症状:-d フラグ (デバッグ) を使用可能にすると、ログ・ファイル・アダプターが行うイベントのマッチングが同じではなくなる。

解決策:フォーマット・ファイルの処理中に起こる論理エラーが修正されました。

APAR IY47508

症状:資料に記載されているルール・ベースのプロファイル・レポート・ファイルの位置に誤りがあります。

解決策:『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY47552

症状:SNMP ログ・ファイル・アダプターに対する DRVSPEC のトレースを使用可能にすると、バージョン 1 (または他のバージョン) の誤った SNMP トラップのためにセグメンテーション違反を起こすことがあります

解決策:SNMP トラップの処理が成功しなかった場合でも、デバッグ・トレース処理によって処理対象 SNMP トラップの出力が試みられていました。SNMP トラップが正常に処理された場合のみ、トレースが実行されるようになりました。

APAR IY47689

症状:データベースをカスタマイズした場合、IBM Tivoli Enterprise Console データベースを新バージョンへアップグレードする時にアップグレード・データベース・スクリプトを変更しない限り、アップグレード・データベース・スクリプトがカスタマイズを取り消す場合があります。

解決策:『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY47778

症状:拡張ログ・ファイル・アダプターの PreFilter オプションが、Windows アダプターまたは UNIX アダプターでは使用できない。

解決策:アダプター構成機能 (ACF) は拡張ログ・ファイル・アダプター間の名前の違いを認識できませんでした。ACF は現行ログ・ファイル・アダプターと拡張ログ・ファイル・アダプターの両方の名前をチェックするようになりました。

APAR IY47948

症状:wtdbpace -T コマンドを実行してデータの表示を IBM Tivoli Enterprise Console 表スペースの範囲内に収めると、データが正しい順序で表示されない。

解決策:変数名が上書きされ、誤った表スペースが参照されていました。この問題は訂正されました。

APAR IY47953

症状:WIDTHSTRMEANING=YES オプションが設定されると、 %[length]s フォーマットを含むログ・ファイル・アダプター・フォーマット・ファイルでのイベントのマッチングが正しくない。

解決策:アダプターが %[length]s のフォーマットを含むフォーマット・ファイルを正しく処理するようになり、イベントが期待どおりにマッチングするようになりました。

WIDTHSTRMEANING キーワードはアダプター構成ファイルで構成できます。これは %[length]s のフォーマット・ストリングと共に使用されます。アダプター構成ファイルで WIDTHSTRMEANING=YES を設定して、修飾子の長さを決

定するか (IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.6 製品の場合)、マッチングするストリングの長さを指定します。デフォルトは WIDTHSTRMEANING=NO です。このキーワードの値が WIDTHSTRMEANING=NO の場合は修飾子の部分は切り捨てられます。ストリング全体が突き合わされ、関連した変数は指定した長さになるように切り捨てられます。

APAR IY47956

症状:イベント・コンソールのオペレーターの割り当てを解除すると、そのオペレーターを別のイベント・コンソールに再割り当てすることができない。コンソールの再始動後も、そのオペレーターは「使用可能なオペレーター」リストに含まれません。

解決策:オペレーターがイベント・コンソールの割り当てから解除されたら、その名前が「現在のオペレーター (Current Operators)」リストから「使用可能なオペレーター」リストに移されるようになりました。

APAR IY47983

症状:Linux ログ・ファイル・アダプターのインストール時、\$(TECADHOME)/bin/update_conf スクリプトを実行中に syslogd プロセスが名前付きパイプをオープンしようとするブロックされる。

解決策:Linux システムでのパイプの使用法が正しくなかったために syslogd プロセスがブロックされていました。名前付きパイプを正しく使用するように init.tecad_logfile 始動スクリプトが修正されました。

APAR IY48071

症状:tec_gateway アダプター構成プロファイル (ACP) を編集するときに「一般」ページの「構成ディレクトリー」フィールドを変更すると、tec_gateway プロセスが tec_gateway.conf ファイルを読み取れなくなる。

解決策:『資料の更新内容』の追加情報を参照してください。

APAR IY48228

症状:実数値が形式設定されて指数表記で表示される。

解決策:新たに tec_disable_exponential_format 構成パラメーターが作成されました。この新規パラメーターについては、『資料の更新内容』を参照してください。

APAR IY48323

症状:データベース・インストール・アシスタントで使用される DB2 クライアント・スクリプト・テンプレートの中の TEC_T_ASSIGN_OP 表用 ddl ステートメントに余分なバックスラッシュ (¥) が含まれているため、データベース・インストール・アシスタントの実行が停止する。

解決策:DB2 クライアント・スクリプト・テンプレートから余分なバックスラッシュ (¥) が除去されました。

APAR IY48347

症状:BAROC の予約語をスロットで使用できないということが IBM Tivoli Enterprise Console 資料ライブラリーで文書化されていません。

解決策:『資料の更新内容』の情報を参照してください。

APAR IY48508

症状:ルール・ベースをコンパイルするときに、データ・ファイルがルール・ベース・ターゲット (rule_sets_EventServer など) にインポートされ、それと同じルール・ベース・ターゲットにルール・パックがあとでインポートされてそのルール・ベース・パックがルール・ベース・ターゲット・ファイル内のデータ・ファイル・エントリーの後に置かれると、Java 例外がスローされる。

解決策:データ・ファイルがルール・ベース・ターゲットにインポートされたあとで同じルール・ベースにルール・パックがインポートされてターゲット・ファイル内のデータ・ファイル・エントリーの後に置かれても、ルール・ベースが正しくコンパイルされるようになりました。

フィックスパック 3.8.0-TEC-FP01 に含まれている APAR

このセクションでは、3.8.0-TEC-FP01-2 フィックスパックが提供する APAR フィックスの説明およびテストに関する注記を記載しています。

APAR IY21196

症状:rc.nfs ファイルで始動コマンドを使用しても、AIX アダプターが自動的に始動しない。

テストに関する注記:/etc/inittab ファイル内に項目が追加されたかどうか検査しました。/etc/rc.tecad_logfile ファイルが作成され、システムの再始動時にアダプターを始動するための適切なコマンドがそのファイルに入れられました。

APAR IY28856

症状:データベース内のイベントの数が非常に多い場合、**wsetemsg** コマンドの実行が完了するまでに数分かかる。
テストに関する注記:データベース内のイベントの数が 1000 を超える場合、指定されているイベントを **wsetemsg** コマンドが正しく更新し、2 秒以内で戻るかどうかを検査しました。

APAR IY33041

症状:**wtdbclear** コマンドの発行時に、DB2 製品でストアード・プロシージャが正しく実行されない。
テストに関する注記:エラーが戻されずに、**wtdbclear** コマンドがストアード・プロシージャを使用して正常にクリアするかどうかを検査しました。

APAR IY33187

症状:イベントの長さが 4096 文字を超えている場合に、ログ・ファイル・アダプターでエラーが発生する。
テストに関する注記:パラメーター `EventMaxSize=x` を組み込むように構成ファイルを変更してから、イベントをイベント・サーバーに送信しました。x の値が 100、4096、および 5000 に置換され、テストが繰り返されました。イベントに含まれている文字が 4096 文字以下の場合、すべてのイベント・データがイベント・サーバーで受信されました。イベントに含まれている文字が 4096 文字を超える場合、イベント・データが切り捨てられました。

APAR IY33312

症状:**wstopesvr** プロセスが無期限に実行され、他の `tec_*` プロセスを停止できない。
テストに関する注記:`single_port_bdt` 変数が TRUE に設定され、イベント・サーバーおよびイベント・コンソールが再始動されました。`listen_to_server` メソッドがアクティブであり、さらに **wstopesvr** コマンドの実行によってイベント・サーバーが正常に停止するかことを検査しました。

APAR IY33602

症状:削除するイベントの数がバッファー・サイズ以上である場合、または、以下の属性が指定されている場合、**wtdbclear.pl** スクリプトがループする。
`-e -t 0 (without -s, -c, -r) OR -l -f -t 0`
テストに関する注記:エラーが戻されずに、指定されているとおりに **wtdbclear.pl** コマンドが正常にクリアしました。テストは、1500 個のイベントを使用して実行されました。

APAR IY34129

症状:3.7.1-TMF-0073 および 3.7.1-TMF-0075 がインストールされている場合に、コネクション・オリエンテッド・モードで `tec_gateway` が実行された、イベント・サーバーへのイベントの送信が行われない。
テストに関する注記:リストされたフィックスを適用し、コネクション・オリエンテッド・モードを構成した後で、イベント・サーバーですべてのイベントが正常に受信されるかどうかを検査しました。

APAR IY34289

症状:イベント・サーバーの初期化中にセグメンテーション違反で `tec_rule` プロセスが停止し、さらに、イベントを転送するように構成されている場合にコア・ファイルを生成する。
テストに関する注記:ルールを転送するテスト・イベントが、何もエラーを生成せずに、正常にコンパイル、ロード、および実行されるかどうかを検査しました。

APAR IY34596

症状:文字 `%s*` で始まらないステートメントが `FMT` ファイルに含まれている場合、`tecad_nt.exe` プロセスが Dr. Watson エラーを生成する。

APAR IY34913

症状:**init.tecad_logfile** スクリプトが Tier 2 DEC システムで `-s` オプションを処理しない。
テストに関する注記:DEC Tier 2 システム上のエンドポイントにアダプターが正常に配布されていることを検査しました。`LogSources` 属性によって指定したファイルをモニターするように構成ファイルを更新した後で、アダプターが開始されました。イベントはイベント・サーバーで受信されました。

APAR IY34968

症状:`LogSources` オプションで指定したファイルから読み取るアダプターが、行ごとの文字数が 300 文字を超えるイベントを転送できない。

テストに関する注記:行あたりの文字数が 300 文字を超える行を 100 行以上受信し、指定したログ・ファイルをモニターするようにアダプターを構成しました。イベント・サーバーですべてのイベントが正しく受信されることを検査しました。

APAR IY35033

症状:「タスクの実行」ウィンドウ内の使用可能なホストのリストで、エンドポイント名の代わりにホスト名が表示される。

テストに関する注記:イベントを選択し、「タスクの実行」ウィンドウから「ターゲット・ホスト」タブを選択した後で、「現行ホスト」ウィンドウにエンドポイントが正しく表示されるかどうかを検査しました。

APAR IY35278

症状:FMT ファイル内の `match` ステートメントに文字 `s*` が含まれている場合、ログ・ファイル・アダプターが始動しません。

APAR IY35647

症状:3.7.1-TEC-FP02 の適用後、Windows アダプターでパフォーマンスの低下が見られる。

テストに関する注記:アダプターがすべてのテスト・メッセージ (300) を 6 分 45 秒以内で送信するかどうかを検査しました。これを、ベース 3.8 リリース使用時の 11 分と比較します。

APAR IY35763

症状:3.7.1-TEC-FP04 で配布されているコンソールが、Java クラス・エラーが原因で、始動しない。

テストに関する注記:イベント・コンソールの再始動後、イベント・グループおよび他のイベント・コンソールの設定が持続しているかどうかを検査しました。

APAR IY36144

症状:バージョン 3.6.x からのアップグレード後に、形式指定子 `%LENGTHs` が正しく構文解析を行わない。

テストに関する注記:テスト・ファイルを読み取るように `LogSources` オプションを構成し、`WIDTHSTRMEANING=YES` オプションを使用してアダプターを配布しました。FMT ファイルが変更され、新しい CDS ファイルが生成されました。デバッグ・モードでアダプターを開始した後、属性ごとにすべての変数が正しく割り当てられました。

APAR IY36319

症状:**TroubleTicket.sh** スクリプトの発行時に、アドミニストレーター名を含む新しい `TEC_ADMIN` 環境変数が作成される。

テストに関する注記:`TEC_ADMIN` 環境変数の値をエコー出力するように、`$BINDIR/TME/TEC/TroubleTicket.sh` を変更しました。**TroubleTicket.sh** スクリプトの実行後、正しい値が表示されました。

APAR IY36572

症状:`tec_gateway` プロセスでメモリー・リークが見られる。

テストに関する注記:`tec_gateway` プロセスで際限のないメモリーの使用が見られないことを検査しました。

APAR IY36686

症状:`tec_gateway.conf` ファイル内の `ServerLocation` キーワードで、指定したイベント・サーバーの後にスペースが入れている場合、ローカル・イベント・サーバーが停止すると、そのキーワードが無視される。

テストに関する注記:`ServerLocation` キーワードでイベント・サーバーの後にスペースが入れている場合、イベント・サーバーでイベントが正しく受信されるかことを検査しました。

APAR IY37000

症状:Event Integration Facility (EIF) がヌル属性値を受け取った場合、イベントが廃棄される。

テストに関する注記:いくつかのヌル属性を含めるように `SampleAdapters.java` ファイルが変更され、イベント・サーバーで引き続きイベントが受信されました。

APAR IY37027

症状:二重引用符で囲まれたストリングが Java EIF で正しく構文解析されない。

テストに関する注記:二重引用符を含めるように、`SampleAdapters.java` ファイルを変更しました。イベント・サーバーがイベントを正しく受信することを検査しました。

APAR IY37051

症状:別個相互接続の Tivoli 管理リージョン (Tivoli リージョン) 内に置かれている場合、アダプターがイベント・サーバーにイベントを送信しない。

テストに関する注記:2 つの相互接続の Tivoli リージョンを構成した後で、1 つのイベント・サーバーをインストールしました (1 つの Tivoli リージョン内だけで)。イベント・サーバーにイベントを送信するように、2 番目の Tivoli リージョン内で `tec_gateway.conf` ファイルを構成しました。2 番目の Tivoli リージョン内で Windows NT アダプターを構成した後 (ServerLocation キーワードを設定せずに)、イベントが生成されました。すべてのイベントがイベント・サーバーで受信されました。

APAR IY37190

症状:巨大なログ・ファイル (100MB など) の処理中に、Windows アダプターがプロセッサを 100% 使用する。
テストに関する注記:100 万個以上のイベントをアダプターのログ・ファイル (FMT ファイル内のどのような形式とも一致しなかった) へ追加すると、プロセッサの使用率が 99% 近くになる場合がありますでしたが、ほとんどの時間は 0% 近くのみでした。

APAR IY37400

症状:エンドポイント `wpostmsg` コマンドを使用して、エンドポイントからイベント・サーバーへイベントを送信する場合、ゲートウェイでイベントがキャッシュに入れられる。

APAR IY37675

症状:ロケールがデンマーク語に設定されると、`tec_dispatch` プロセスがイベントを受信しなくなる。
テストに関する注記:ロケールがデンマーク語に設定された時に、イベント・サーバーがイベントを正しく処理することを検査しました。また、ロードされたテスト・ルール・ベースを使用してイベントが正しく処理されること、さらには、イベント・サーバーが受信イベントを処理し続けることを検査しました。

APAR IY37768

症状:エンドポイント・キャッシュからデータをロードした、完全な `tec_gateway.cache` ファイルの内容を処理した後で、`tec_gateway` プロセスがイベント・サーバーへイベントを送信しなくなった。
テストに関する注記:イベント・サーバーが停止していた間、ゲートウェイでイベントが適切にキャッシュに入れられることを検査しました。イベント・サーバーを再始動すると、予期していたおりにキャッシュが空になり、ゲートウェイが受信イベントの処理を続けました。

APAR IY37863

症状:Tivoli Enterprise Console のバージョン 3.6.2 から 3.7.1-TEC-FP04 へのアップグレード後、HP アダプターがプロセッサを 100% 使用し、イベントを処理しない。
テストに関する注記:このテスト・ケースに合致するように HP アダプターを配布し、FMT および CONF ファイルをアップグレードした後、16 時間以上にわたって一連のイベントをアダプターが受信しました。アダプターはすべてのイベントを処理し、プロセッサを 100% 消費しないことを検査しました。

APAR IY38116

症状:受信ロギングが使用不可の場合、イベント・サーバーがイベントを処理できない。
テストに関する注記:受信ロギングが使用不可の場合に、イベント・サーバーが正しくイベントを受信できることを検査しました。

APAR IY38723

症状:DISPLAY 環境変数が `TroubleTicket.sh` スクリプトに適切に設定されない。
テストに関する注記:ローカル・システムに UNIX xterm ウィンドウが表示されている場合に、`env` コマンドを使用して DISPLAY 環境変数が適切に設定されていることを検査しました。

APAR IY39825

症状:「タスクの実行」ウィンドウの「現行ホスト」には、ホスト名ではなくエンドポイント名リストされなければなりません。
テストに関する注記:管理対象ノード以外のエンドポイント・システムを構成してから、アダプターを配布しました。イベントが送信された後、イベント・ビューアーでイベントを選択し、「タスクの実行」を選択しました。「現行ホスト」のリストに、エンドポイント・システムが正しく表示されました。

APAR IY40557

症状:SLOTS 環境変数にリストされている場合でも、拡張イベント属性が `TroubleTicket.sh` スクリプトで使用できない。

テストに関する注記:SLOTS 環境変数の出力をファイルヘリダイレクトし、拡張情報が正しくリストされることを検査しました。

APAR IY40864

症状:オペレーターがイベント・ビューアーをアクティブにした時に、イベント・コンソールのプロパティへの変更が表示されない。

テストに関する注記:イベント・ビューアーで追加、削除、または再配列されたすべての列がコンソールの再始動後に持続していることを検査しました。

注:このフィックスが適用されるのは、新しいイベント・コンソールの作成時だけであり、イベント・コンソールのマイグレーション時には適用されません。

APAR IY40903

症状:IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.6.2 から IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 へのアップグレード時に、**wmigcon** コマンドの実行によって Java 例外が生成される。

テストに関する注記:Java 例外が生成されずに、**wmigcon** コマンドが正しく実行されることを検査しました。

APAR IY41207

症状:イベント・サーバーが、イベントを受信するためのポートを入手できません。

テストに関する注記:イベント・サーバーがポートを入手し、正常にイベントを受信するかどうか検査しました。

既知の問題点および制限

問題:一部の DBCS スtringが適切に変換されない。変換ライブラリーでこの問題に対処するために、問題 174338 および 174729 がすでに公開されている。

対処法:DBCS テキストを二重引用符 (") 内に置き、末尾の二重引用符の直前にスペースを 1 つ追加します。

問題:Tivoli Enterprise Console イベント・コンソールが、ドライバーのインストール後に Red Hat 2.1 上で起動できない。

対処法:以下の行を /etc/pam.d/oserv に追加します。

```
account    required    /lib/security/pam_unix.so
```

資料の更新内容

APAR IY31847

「IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド」の第 10 章『UNIX logfile adapter』の構成ファイルを説明するセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

NewLogBasedOn キーワードは、ログ・ファイルのタイム・スタンプが変更されてもサイズが同じであるときに、そのファイルを新規とみなすかどうかを指定します。ファイルが新規とみなされる時、アダプターはそのファイルに含まれるすべてのイベントを再送信します。このキーワードはオプションです。**NewLogBasedOn** が指定されていない場合、既存のログ・ファイルは、そのサイズが減少する場合のみ新規とみなされます。取りうる値は以下のとおりです。

ctime | **CTIME**

ファイルは、作成タイム・スタンプが変更された場合に新規とみなされます。

mtime | **MTIME**

ファイルは、変更タイム・スタンプが変更された場合に新規とみなされます。

cmtime | **CMTIME**

ファイルは、作成タイム・スタンプまたは変更タイム・スタンプが変更された場合に新規とみなされます。

APAR IY40095

NLS キーボード・マッピングを使用してコンソール・ログイン・ポップアップ・ウィンドウに入力されたロケール文字は受け入れられません。

この問題は、英数字のみを使用してオペレーティング・システムのユーザー・アカウントを作成することにより修正されます。

APAR IY40180

「IBM Tivoli Enterprise Console ユーザーズ・ガイド」の付録 A 『Troubleshooting』の `tec_gateway` プログラムの問題を説明するセクションで、以下の情報を組み込む必要があります。

`tec_gateway` プロセスに対する標準トレースが使用可能になり、`.tec_gateway_diag_config` ファイルを使用して構成できるようになりました。そのファイルは次のディレクトリーに置かれています。

```
$BINDIR/./generic_unix/TME/ACF_REP/.tec_gateway_diag_config
```

ゲートウェイ構成ファイルの形式は、`.tec_diag_config` および `.ui_server_config` ファイルに類似しています。

次の例は、`.tec_gateway_diag_config` ファイルのデフォルトの設定を示しています。

```
Highest_level          error
Truncate_on_restart   true

# tec_gateway
#####

tec_gateway Highest_level          error
tec_gateway GW_Send               error /tmp/tec_gateway
```

トレース・レベルは、高いものから低いものへの順序で次のようになります。

`error`、`warning`、`trace0`、`trace1`、`trace2`。

問題をデバッグするために完全トレースが必要とされる場合以外は、トレースを使用不可にするか、`error` レベルに設定してください。`Highest_level` および `tec_gateway Highest_Level` の行は、後続のセクションにおいて可能な最高のトレース・レベルを設定します。`trace2` が最も冗長なトレース・レベルです。

`Truncate_on_restart` 変数は、`tec_gateway` プロセスが起動したときにトレース・ファイルを 0 バイトに切り捨てるかどうかを決定します。現在のところ、`Gw_Send` が、ゲートウェイのトレースに使用可能な唯一のモジュールです。

ゲートウェイに対してトレースを設定するには、以下のステップを完了します。

1. `.tec_gateway_diag_config` ファイルをインストールまたは変更して、トレースを設定した後、そのファイルを次の場所にコピーします。
UNIX システムの場合：`/etc/Tivoli/tec/.tec_gateway_config`
Windows システムの場合：`%SYSTEMROOT%\system32\drivers\etc\Tivoli\tec_gateway_config`
2. `wstoptecgw` コマンドを実行してゲートウェイを停止し、再始動します。ゲートウェイ構成ファイルは、ゲートウェイの再始動後に `tec_gateway` プロセスで読み取ることができます。

APAR IY41395

「IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド」では、アダプターを開始するためには、`Senior` またはそれ以上の特権をもつ管理者アカウントを作成する必要があると記載されていますが、これは誤りです。また、`Windows` アダプターの構成に関するセクションでは、ユーザー・ログイン名およびグループ・ログイン名フィールドはブランクのままが良いと記載されています。これも許可されません。これらのフィールドがブランクの場合、`Tivoli region` 役割またはログイン・ウィンドウを使用できません。

APAR IY42463

`wlocalhost` 設定に基づいて、正しいインターフェースがバインドされます。`Java Client Framework (JCF)` は、以下の順序で `wlocalhost` 設定を検索します。

1. `JCF` は、コンソール起動スクリプトを介してシステム・プロパティーとして渡された `wlocalhost` 設定を検索する。たとえば、`tec_console` 起動スクリプトで、以下を `PROPERTIES=<line>` に追加します。
`-DWLOCALHOST=test1.austin.ibm.com`

すでに他のシステム・プロパティーがリストされている場合、`-DWLOCALHOST= line` を追加し、プロパティー

のリスト全体が二重引用符 (") で囲まれていることを確認してください。Windows システムの場合、プロパティのリストを二重引用符で囲む必要はないことにご注意ください。

UNIX システムの場合の例:

```
PROPERTIES="<line> -DWLOCALHOST=test1.austin.ibm.com"
```

Windows システムの場合の例:

```
PROPERTIES=-DINTERP=${INTERP} -DDISPLAY=${DISPLAY} -  
DWLOCALHOST=test1.austin.ibm.com
```

注:Windows システムの場合、コンソール起動スクリプトは `tec_console.cmd` ファイルです。

2. コンソール起動スクリプトを介してシステム・プロパティとして渡された `ETCWLOCALHOST` を検索する。`ETCWLOCALHOST` は、インターフェースのホスト名または IP アドレスが保管されているファイルの名前と場所を示します。

UNIX の場合の例:

```
PROPERTIES="<line> ETCWLOCALHOST=/etc/techost"
```

Windows の場合の例:

```
PROPERTIES=<line> ETCWLOCALHOST=/etc/techost
```

`techost` は、バインド先となるインターフェースの完全修飾ホスト名、または IP アドレスを含むファイルです。

3. 上記のいずれも渡されない場合、JCF は、バインド先となるインターフェースの完全修飾ホスト名、または IP アドレスを含むデフォルトのファイル `/etc/wlocalhost` を検索します。
4. 最後に、上記の 3 つのリスト項目が該当しない場合、JCF はデフォルト・インターフェースを使用する `getLocalHost()` を呼び出します。

正しいインターフェースにバインドしたい場合は、上記のシステム・プロパティを使用する必要があります。また、Windows システムでは、`wlocalhost` の値がレジストリーに保管されます。コマンド行から `wlocalhost` コマンドを実行し、それを上記の方法のいずれかを使用して値として渡すことにより、レジストリーから値を取得できません。

APAR IY42977

イベントの受信時に、ネットワーク接続の切断が発生した場合、IBM Tivoli Enterprise Console サーバーはしばらくの間イベントの処理を中断します。接続に問題がある場合は、ネットワークからのイベントの受信中に、`tec_reception` プロセスが無期限にブロックする可能性があります。ネットワークに問題がある場合、イベント受信のための構成可能なタイムアウトを受け入れるように、受信ロジックを変更されました。`.tec_config` ファイルに、新たに `tec_recv_timeout` 構成パラメーターが追加されました。このパラメーターは、`tec_reception` プロセスが接続からドロップするまでの秒数を指定し、その後、エージェントは再接続しイベントを送信できるようになります。使用例: `tec_recv_timeout=10`

APAR IY43428

オペレーティング・システムの認証を使用するように、Oracle サーバーをセットアップする必要があります。Oracle データベースを Oracle サーバーまたはオペレーティング・システムによる認証を使用するよう構成することができます。以下のステップを実行して Oracle データベースを構成し、オペレーティング・システムがユーザーを認証できるようにします。

1. `$ORACLE_HOME/network/admin/sqlnet.ora` ファイルをチェックする。ファイルには、以下の行が含まれています。`SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES=(NTS)`

リモートの Oracle データベースに接続する場合、クライアントおよび Oracle サーバー上の `sqlnet.ora` ファイルを同じように構成する必要があります。クライアントから接続する場合、外部認証用に追加の Oracle データベース構成値を設定する必要があります。

2. スタンド・アロン・モードで、Oracle Enterprise Manager Console を起動する。

3. ご使用の Oracle データベースで、オペレーティング・システムによって認証されるユーザーを作成します。Oracle Enterprise Console は、Oracle インスタンスを管理するのに使用されます。このインスタンスは、ユーザーの作成を含みます。ユーザーに対して以下の名前が使用されます。

UNIX システムの場合:

OPSS<operating system ID>

たとえば、オペレーティング・システム ID が systemid の場合、Oracle ID は OPSSsystemid でなければなりません。

Windows システムの場合:

OPSS<machine or domain name>\<operating system ID>

たとえば、ローカル管理者の Oracle ID は以下のとおりです。

OPSSKIZER04\ADMINISTRATOR

ユーザーの外部認証を指定する必要があります。

注:Oracle の接頭部をデフォルトの OPSS から変更できます。接頭部がブランクである場合もあります。os_authent_prefix 構成パラメーターを使用して、接頭部を変更します。

4. IBM Tivoli Enterprise Console データベースをインストールする場合、ユーザーは SYSDBA として操作する必要があります。ユーザーは以下のユーザー・グループに属している必要があります。ここで、group はユーザー・グループの名前を表します。

UNIX システムの場合:dba group

Windows システムの場合:ORA_DBA group

上記のステップを終了すると、ユーザー ID およびパスワードを指定せずに Oracle データベースへログインできます。Oracle システムは、オペレーティング・システムにログインしている現行ユーザーを使用します。Oracle データベースに接続するには、以下を入力します。

```
sqlplus "/@SID as sysdba"
```

ここで、SID は、Oracle データベースの ID です (TEC など)。

SQL*Plus では、show user コマンドを使用して、Oracle データベースにログインしている現行ユーザーを表示することができます。

SYSDBA としてログインしている場合、show user コマンドを実行すると SYS を戻します。

ユーザーとしてログオンすることもできます。以下のように入力します。

```
sqlplus "/@SID"
```

show user コマンドは、Oracle の OPSS ユーザーを表示します。

APAR IY45458

システムのリブート後、lcfid デーモンが誤った環境変数を設定して始動し、イベント・データが読み取り不能になります。lcfid.sh および init.tecad_logfile.sh スクリプトを変更して、各ファイルの先頭に以下の行を含めることにより、この問題は修正されました。

```
unset LC_MESSAGES
```

APAR IY47508

「IBM Tivoli Enterprise Console ルール開発者ガイド」の第 6 章『Testing, tracing, and profiling rules』のルール・セットのプロファイリングを説明するセクションで、ルール・ベース・プロファイル・レポート・ファイルがある場所について

誤った情報が記載されていました。ルール・ベース・プロファイル・レポート・ファイルは、/tmp ディレクトリーに存在します。\$DBDIR/tec ディレクトリーではありません。

APAR IY48228

新しい `tec_disable_exponential_format` 構成パラメーターが、`tec_config` ファイルに追加されました。このパラメーターで、実数を指数または浮動小数点形式にフォーマットできます。たとえば、次のようになります。

```
tec_disable_exponential_format=yes.
```

APAR IY48347

BAROC 予約語はスロットで使用できません。この情報は、IBM Tivoli Enterprise Console 文書ライブラリに文書化されます。

ルール・エンジンが新しいイベントを解析する時に、ルール・エンジンがスロットで自動的に使用される BAROC 予約語を検出すると、ルール・エンジンは `PARSING_FAILED` エラーにより失敗します。BAROC 構文では、以下の予約語はどの `STRING` 型スロット値にも割り当てられません。DEBUG、DEFINES、END、ENUMERATION、INT32、INTEGER、ISA、I_NAME、LIST_OF、POINTER、REAL、REFERS_TO、SELF、SINGLE、STRING、default、dup_detect、parse、print_ref、reverse、および self_classname。

APAR IY48565

「IBM Tivoli Enterprise Console Reference Manual バージョン 3.8」の 77 ページで、`wrb` コマンドの `-imptgtdata` オプションは、次のように更新する必要があります。

-imptgtdata data_file target rule_base

サポート・データ・ファイルをルール・ベース・ターゲットにインポートします。そのファイルは `TEC_RULES` サブディレクトリー内に既に存在していなければならず、ルール・ベースによって配布されていなければなりません。たとえば、次のファイルをインポートできます。

- Event Integration Facility の構成ファイル

- Prolog ファクト・ファイル

- Prolog データ・ファイル

data_file

指定したルール・ベース・ターゲットにインポートするファイルの名前。パスではなくファイル名を指定します。このファイルは、`TEC_RULES` サブディレクトリー内に既に存在していなければなりません。

target

インポートするデータ・ファイルを受け取るルール・ベースの名前。

rule_base

ターゲットを含むルール・ベースの名前。

APAR IY49070

「IBM Tivoli Enterprise Console ルール開発者ガイド」の第 4 章『Rule language reference』のディレクティブを説明するセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

profile ディレクティブ

ルール関数のプロファイル処理を有効にします。このディレクティブを使用することにより、プロファイル処理の対象となる各ルールの機能に関する詳細な情報をレポートの形で入手できます。その詳細情報は、単一のルール・アクションに関してのみ正確です。`profile` ディレクティブは、ルール・セットの先頭、または個々のルール内に指定できます。**wrb-comprules-profile** コマンドを使用すれば、ルール・ベース全体のプロファイル処理も可能です。デフォルトでは、プロファイル処理はオフになっています。詳しくは、下記の「プロファイルのルール」と「プロファイルの細分度」を参照してください。

プロファイルのルール

プロファイル処理では、ルール・アクション実行情報を含むレポートが生成されます。単独ルール・アクションのプロファイル処理が可能です。レポートには、プロファイル処理の対象となるルール・アクションに関する以下の情報が含まれています。

- そのルールを起動した最後のイベントを処理するために、そのルール・アクションの費やした時間 (秒)。
- そのルール・アクションによって処理されたイベントの数。
- そのルール・アクションの中ですべてのイベントの処理のために費やされた時間 (秒)。
- そのルール・アクションのイベントのスループット (1 秒当たりのイベント数)。

注:

ルール・アクションのプロファイル処理で、`commit_rule()`、`commit_action()`、および `commit_set()` の言語述語を使用することはできません。
プロファイル処理はシステム・リソースを使用するため、実動環境用のルール・ベースのコンパイル時には、プロファイル処理をオフにしてください。

以下の図は、1 つのルールのプロファイル処理を示すプロファイル・レポートの例です。

```
=====
Timing Summary
-----
test_rls:
Time for last Event:7.000000000000001e-02
Event Count:      2
Total Time:4.799999999999998e-01
Events per second:4.166666666666669e+00
-----
=====
```

ルールのプロファイル処理を実行するには、プロファイル処理を有効にしてルール・ベースをコンパイルする必要があります。これは、コマンド行から **wrb-comprules -profile** コマンドを使用することにより、またはルール・セットまたはルールで **profile** ディレクティブを指定することにより実行できます。

プロファイル処理を有効にしてルール・ベースを再コンパイルしたなら、イベント・サーバーを停止してから再始動することによりプロファイル処理を開始してください。プロファイル・レポートは、イベント・サーバーのシャットダウン時に `$DBDIR/tec/profile` ファイルに付加されます。プロファイル・レポートは常に同じファイルに付加されていくため、そのファイルを削除するか、またはその中のエントリを削除しないなら、それは巨大なファイルになる可能性があります。それで、定期的に確認するようにしてください。

プロファイルの細分度

ルールのプロファイル処理では、細分度のレベルとして以下のレベルがサポートされています。

注:

情報レポートは、1 つのルール内の単一のアクションのプロファイル処理に関しては正確です。複数のルールとアクションに対して **profile** ディレクティブを設定した場合、情報が正確ではなくなります。

以下の **wrb** コマンドによってプロファイル処理を有効にすると、1 つのルール・ベース内のすべてのルールに対してプロファイル処理が実行されます。

wrb-comprules -profile.

ルール・セット

ルール・セットのプロファイル処理を実行するには、そのルール・セットの最初のルールの前の先頭位置に **profile** ディレクティブを挿入します。以下に例を示します。

```
directive:profile %Start profiling.
rule:rule1:(
...
). %End rule1.
```

```

rule:rule2:(
...
). %End rule2.
rule:rule3:(
...
). %End rule3.
%End rule set.
%End profiling.

```

ルール

特定のルールのプロファイル処理を実行するには、そのルールのイベント・フィルターの前に `profile` ディレクティブを挿入します。

```

rule:test_rule:(
directive:profile,
event:_evt of _class within [?NT_NAV ?]where [],
reception_action:action0:(
drop_received_event
)
).

```

APAR IY50376

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の構成パラメーターの付録で、以下の情報を追加する必要があります。

`.tec_config` ファイルの中で、以下のキーワードを構成できます。

tec_rule_password	ルール・エンジンが、クライアント接続から送られたコマンドの妥当性検査を実行するために使用するパスワード。
tec_rule_mport_enable_level	有効にされている管理ポート・コマンドを指定する。 < 0 - 有効な管理ポートなし 0 - 有効なコマンド: ping および hangup。 1 - 有効なコマンド: レベル 0 のコマンドと stop、dumpReceptionLog、reloadRuleBase、getCacheContents、および streamRulesTrace。 2 - 有効なコマンド: レベル 1 のコマンドと cannedQuery。 3 - 有効なコマンド: レベル 2 のコマンドと、query および reloadPredicates。

APAR IY50458

「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリース情報」の `first_instance` および `all_instances` 述部の変更点を扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

`first_instance()` および `all_instances()` の述部で、属性フィルターで参照されている各属性がクラス・フィルターの中のリストに含まれるクラスの 1 つにおいて定義されていることを検証するようになりました。つまり、ある属性についてフィルター処理をするためには、ルール実行を引き起こすクラスの中、またはそのクラスの継承元の上位クラスの中で、その属性が定義されていなければなりません。

APAR IY50866

「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 ルール開発者ガイド」の 212 ページの更新:

BufferFlushRate

`BufferFlushRate` パラメーターを、イベント転送構成ファイルの中、またはルール・ベースの中で定義することはできません。また、0 に設定してもなりません。`re_send_event_conf()` 述部では、IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 で導入された EIF ライブラリーの新たな拡張バージョンが使用されます。拡張 EIF ライブラリーでは、まずイベントをキャッシュ入れた後、別個のスレッドがそのキャッシュを空にすることにより、アクティブな接続においても常にキャッシュが使用されるようになっています。

APAR IY51371

「IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 リリース情報」の、アダプター構成ファイルのフィルターに含まれる英語以外の言語のデータを扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

アダプター構成ファイルのフィルターに含まれる英語以外の言語のデータ
イベント・データの中で UTF-8 を使用するには、

- フォーマット・ファイルと構成ファイルの両方を、ローカル・エンコードでカスタマイズします (SJIS など)。
- UNIX の場合は `logfile_gencds`、Windows の場合は `win_gencds.exe` を使用することにより、CDS ファイルを生成します。
- DBCS 文字が使用されているなら、構成ファイル、フォーマット・ファイル、および CDS ファイルを UTF-8 エンコードに変換します。
- UTF-8 変換後のフォーマット・ファイルを必ず `/etc/C` ディレクトリーにコピーしてください。
- アダプターを UTF-8 ロケールで始動します。

注:UTF-8 エンコードのイベント・データをモニターするには、アダプターの構成ファイル、フォーマット・ファイル、および CDS ファイルのすべてが UTF-8 エンコードに設定されていなければなりません。

APAR IY51877

「IBM Tivoli Enterprise Console ルール開発者ガイド」の、`tec_compile`、`tec_consult`、および `tec_reconsult` 述部を扱うセクションで、以下の一般情報を追加する必要があります。

`tec_compile()`、`tec_consult()`、および `tec_reconsult()` の述部は、現在 `compile()`、`consult()`、および `reconsult()` の述部を使用する場合と同じ方法で使用できます。`tec_compile()`、`tec_consult()`、および `tec_reconsult()` の各述部の場合、ユーザーは `BIM_PROLOG_DIR` 環境変数を設定する必要がありません。

APAR IY52078

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の、`wsetesvrcfg` コマンドを扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

`.tec_config` ファイルの中で指定されているインストール・パラメーターは、`wsetesvrcfg` コマンドを使用して設定されているなら、それらは無視されます。

APAR:IY53943:

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の『Options』の中の `waddac` コマンドを扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

-p prefilter

PreFilter を、Windows および NetWare アダプターのアダプター構成レコードに配置するように定義します。ログ仕様と、オプションで `EventID`、`EventType`、およびソース仕様を定義する必要があります。プレフィルターストリングは以下の形式にする必要があります。

```
Attribute=Value ;[Attribute=Value ;Attribute=Value ;...]
```

ストリング全体を単一引用符 (') で囲んで、コマンド行インタープリターがセミコロンに反応しないようにする必要があります。

プレフィルターストリングを最初は使用不可状態に定義するには、プレフィルターストリングの前に `#reFilter:` を付けます。使用可能なプレフィルターストリングは、その前に `PreFilter:` をオプションで付けることができます。たとえば、以下のコマンドは、単一の使用不可プレフィルターストリングレコードを、`winProf` という名前のプロファイルに追加します。

```
waddac -p '#reFilter:Log=Application;'tecad_win winProf
```

多くの `-p` オプションを指定することができます。

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の『Options』の中の **wsetac** コマンドを扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

-p prefilter

preFilter を、Windows および NetWare アダプターのアダプター構成レコードに配置するように定義します。ログ仕様と、オプションで **EventId**、**EventType**、およびソース仕様を定義する必要があります。プレフィルタースtringは以下の形式にする必要があります。

```
Attribute=Value ;[Attribute=Value ;Attribute=Value ;...]
```

string全体を単一引用符 (') で囲んで、コマンド行インタープリターがセミコロンに反応しないようにする必要があります。プレフィルタースtringを最初は使用不可状態で作成するには、プレフィルタースtringの前に **#reFilter:** を付けます。使用可能なプレフィルタースtringは、その前に **PreFilter:** をオプションで付けることができます。たとえば、以下のコマンドは、単一の使用不可プレフィルタースtringを、**winProf** という名前のプロファイルの、キー 12 のエントリに追加します。

```
wsetac -p '#reFilter:Log=Application;'12 winProf
```

多くの **-p** オプションを指定することができます。

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の『Options』の中の **wsetadflt** コマンドを扱うセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

-p prefilter

イベント・プレフィルタースtringを、Windows および NetWare アダプターの、指定のアダプター・タイプのデフォルト値として使用するように定義します。ログ仕様と、オプションで **EventId**、**EventType**、およびソース仕様を定義する必要があります。プレフィルタースtringは以下の形式にする必要があります。

```
Attribute=Value ;[Attribute=Value ;Attribute=Value ;...]
```

string全体を単一引用符 (') で囲んで、コマンド行インタープリターがセミコロンに反応しないようにする必要があります。プレフィルタースtringを最初は使用不可状態で作成するには、stringの前に **#reFilter:** を付けます。使用可能なプレフィルタースtringは、その前に **PreFilter:** をオプションで付けることができます。たとえば、以下のコマンドは、使用不可プレフィルタースtringを、アダプター・タイプ **tecad_win** のデフォルトのフィルタースtring・ステートメントのリストに追加します。

```
wsetadflt -a -p '#reFilter:Log=Application;'tecad_win
```

多くの **-p** オプションを指定することができます。

APAR:IY54505:

「IBM Tivoli Event Integration Facility リファレンス」の第 4 章『Building an adapter』のアダプターのプログラム方法を説明するセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

TME アダプターを Tivoli Application Development Environment を使用して作成する場合、**tec_create_handle** API が、他の **tis** 呼び出しのデフォルトのコード・セットを設定する、**tis_set_def_cs** 関数を呼び出すことに注意してください。非 TME アダプターを作成する場合、ロケールは Event Integration Facility に依存せずに設定され、**tec_create_handle** API を呼び出してもロケールは変更されません。

APAR:IY54892:

「Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の **wsetemsg** コマンドの説明には、変更される属性値のための新規オプションが含まれました。新規の **-e encoding** オプションを使用すると、値は特定のコード・セットから UTF8 に変換されます。このオプションを指定しない場合、値は UTF8 フォーマットであると想定されます。

以下の使用法ステートメントに更新します。

```
wsetemsg [-t status] [-f] [-r severity] [-e encoding] [attribute=value...] console event_ID
```

-e encoding は、変更される属性値の文字エンコードを指定します。このオプションを指定しない場合、値は UTF8 フォーマットであると想定されます。このオプションを使用すると、値は特定のコード・セットから UTF8 に変換されます。エンコード・セットの詳細については、「IBM Tivoli Enterprise インストール・ガイド」の第 2 章『Internationalization』にあるコード・セット・ファイルのセクションを参照してください。

APAR:IY55329

「IBM Tivoli Enterprise Console インストール・ガイド」の Windows 拡張ログ・ファイル・アダプターのサイレント・インストールの記述に、以下の情報を追加する必要があります。

以下の手順を使って、サイレント・インストールを実行します。

- InstallWin/SETUP.ISS (Windows) 応答ファイルを編集します。これは、インストーラーが一般にインストール時にユーザーに照会するインストール情報を提供します。

アダプター ID が無いアダプターをインストールする場合、SETUP.ISS ファイル内の以下の行を必要に応じて編集します。

デフォルトの設定	変更内容
[AskDestPath-0] szPath=C:\¥TECWIN (Windows 2000)	必要に応じて、TECWIN を宛先ディレクトリーに変更
[AskText-0] szText=localhost	localhost を、イベントを配布するホストの名前に変更
[AskText-1] szText=0	0 を、サーバーがイベントを listen するよう構成されているポート番号に変更

アダプター ID があるアダプターをインストールする場合、SETUP.ISS ファイル内の以下の行を必要に応じて編集します。

デフォルトの設定	変更内容
[AskDestPath-0] szPath=C:\¥TECWIN (Windows 2000)	必要に応じて、TECWIN を宛先ディレクトリーに変更
[AskText-0] szText=localhost	localhost を、イベントを配布するホストの名前に変更
[AskText-1] szText=0	0 を、サーバーがイベントを listen するよう構成されているポート番号に変更
[DlgOrder] Dlg0=Welcome-0 Dlg1=AskDestPath-0 Dlg2=AskOptions-0 Dlg3=AskText-0 Dlg4=AskText-1 Dlg5=AskYesNo-0 Dlg6=MessageBox-0 Count=7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい Dlg3 を追加 2. Count の値を 8 に変更 3. その他の Dlg 値を次のように変更 [DlgOrder] Dlg0=Welcome-0 Dlg1=AskDestPath-0 Dlg2=AskOptions-0 Dlg3=AskText-0 Dlg4=AskText-1 Dlg5=AskText-2 Dlg6=AskYesNo-0 Dlg7=MessageBox-0 Count=8
[AskOptions-0] Result=1 Sel-0=1 Sel-1=0	<ul style="list-style-type: none"> • Sel 値を次のように変更 Sel-0=0 Sel-1=1
なし	以下の行を AskOptions-0 ブロックの後に追加し、myid 値を、アダプターに使用したい ID 名に変更 [AskText-0] szText=myid Result=1

デフォルトの設定	変更内容
[AskText-0] szText=localhost	<ul style="list-style-type: none"> AskText-0 を AskText-1 に変更 localhost を、イベントを配布するシステムの名前に変更
[AskText-1] szText=0	<ul style="list-style-type: none"> AskText-1 を AskText-2 に変更 ポート・マッパー機能を使用していない場合、0 を、イベントの listen を実行するようサーバーが構成されているポート番号に変更

- アダプターをサイレント・インストールするには、以下のコマンドを InstallWin (Windows) ディレクトリーで実行します。
setup /s

InstallShield および SETUP.ISS ファイルの詳細については、<http://www.installshield.com> を参照してください。

- アダプターの構成ファイルが、ご使用のオペレーション環境用に適切に構成されていることを検査します。構成オプションについては、169 ページの第 11 章『Windows event log adapter』で説明されています。

注:非 TME アダプターは、アダプターの開始後にプロトコル・アドレスが変更された場合は、イベント・サーバー用にプロトコル・アドレスを動的に解決します。この場合は、アダプターを再始動する必要はありません。

APAR:IY55820

「IBM Tivoli Enterprise Console ルール開発者ガイド」の第 3 章『Rule language reference』の内部表の管理を説明するセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

実行時に、ルール・エンジンは、グローバル変数と Prolog ファクトを内部表としてメモリー内で管理します。この表は、必要なデータを収めるために自動的に管理されます。ただし、状況によっては、この表の管理方法を制御するプリファレンスを調整することが必要な場合があります。

追加のデータのためのスペースがさらに必要な場合、ルール・エンジンは、ガーベッジ・コレクション (古くなったストリングの除去) と表の拡張の組み合わせを使用して、余地を設けます。構成可能な拡張プリファレンス・パラメーターは、このメモリー管理のガーベッジ・コレクションへの依存の程度、および拡張への依存の程度を制御します。デフォルトでは、拡張プリファレンスは 0 に設定され、これはガーベッジ・コレクションの最大プリファレンスを示します。これにより可能な場合は必ず既存の表スペースが再利用され、メモリーの消費は最小になります。このパラメーターは、0 (ガーベッジ・コレクションの最大プリファレンス) から 100 (拡張の最大プリファレンス) の範囲の任意の値に設定できます。

以下のような特定の状況では、このプリファレンスをデフォルト値から変更することができます。

- ガーベッジ・コレクションへの依存を引き下げて、実行速度を向上させたい場合。ただし、このアプローチは注意深く実行すべきです。拡張を続けると、メモリーの消費は大きくなって、スワッピングが増える可能性があります。これは実際にはパフォーマンスの低下という結果になります。
- ラージ・ファクト・ファイルまたはグローバル・ファイルを使用しており、ガーベッジ・コレクションを使用する十分なスペースを再利用できないために表がオーバーフローする場合。これが起きる場合、ルール・エンジンは終了コード 82 で終了し、tell_err 述部でエラー・ロギングを構成していた場合には、ログ・ファイルに以下のメッセージが入ります。

```
***OVERFLOW 710 ***String table overflow (Fatal)
```

拡張プリファレンスを変更するには、以下のようなルールを使用します。

```
rule:table_change:
(
event:_event of_class 'TEC_Start ',
reception_action:change_expansion_preference:
(
table('T ',e100)
)
).
```

この例では、拡張プリファレンスは 100 に設定されます (拡張の最大プリファレンス)。別の値を指定するには、100 を、0 から 100 の範囲内の任意の値で置き換えます。

拡張プリファレンスを他のファイルがロードされる前に設定するには、このルールがルール・ベース内の最初のルールであることを確認します。

APAR:IY58303

以下は、「IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド バージョン 3.8」の付録 C の『Format Specifications』のセクションの補遺として参照してください。

%s* コンポーネント指定子がアダプター・フォーマット・ファイルで使用される場合、メッセージの突き合わせ時に、%s* コンポーネント指定子の前後の空白がアダプターによって考慮されます。たとえば、以下のフォーマット指定子があるとします。

```
FORMAT Test
%s*[x] %s*
END
```

このフォーマット仕様にメッセージを突き合わせる場合、空白はログ・メッセージ内の [x] の直後に置く必要があります、[x] と、メッセージ内でその直前にある定数との間に空白を置くことはできません。3.8.0-TEC-FP02 まで、[x] の後に空白がないメッセージは、アダプターによって誤った突き合わせが行われました。[x] と、[x] の直前にある定数との間に空白があるメッセージも、アダプターによって誤った突き合わせが行われました。これらの動作は、「IBM Tivoli Enterprise Console アダプター・ガイド バージョン 3.8」にある記述とは逆でした。

この問題は 3.8.0-Tivoli Enterprise Console-FP02 で解決され、解決策はすべての後続の 3.8.0- Tivoli Enterprise Console フィックスパックに組み込まれています。

メッセージ内の先頭の非空白文字に先行するすべての空白文字は、アダプターによって無視されます。

Oracle システムで UTF8 エンコード方式の設定を変更する

IBM Tivoli Enterprise Console 製品は、Oracle サーバーとやり取りされるデータに UTF8 エンコード方式を使用します。Tivoli サーバー環境を変更して、UTF8 エンコード方式の正しい設定を取り込む必要があります。

Tivoli 環境設定を変更する権限があるユーザーは、以下のステップを完了する必要があります。

1. Tivoli 環境を呼び出します。
 - UNIX システムではコマンド行から、以下のスクリプトを実行します。
/etc/Tivoli/setup_env.sh
 - Windows システムではコマンド行から、以下のスクリプトを実行します。
%SystemRoot%\¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥Tivoli¥setup_env.cmd
2. Tivoli 環境設定を tempfile に保管するには、以下のコマンドを実行します。
odadmin environ get > tempfile
3. tempfile を編集し、以下のパラメーターを組み込みます。
NLS LANG=language_territory.AL32UTF8

language および territory は、ご使用の Oracle クライアントによって変わります。
4. 新規の Tivoli 設定をインポートするには、以下のコマンドを実行します。
odadmin environ set < tempfile
5. 以下のコマンドを実行して、サーバーを再始動します。
odadmin reexec all

注:UNIX システムの場合、*tempfile* で LANG 設定が行なわれていないと、**odadmin environ set** コマンドが失敗する可能性があります。この設定の値について詳しくは、「Tivoli Management Framework Enterprise インストール・ガイド」を参照してください。

「Oracle9i Database Globalization Support Guide」(Oracle テクニカル・サポートから入手可能)を参照して、言語および地域のパラメーターの適切な設定を選択してください。たとえば、米国英語の正しい設定は AMERICAN_AMERICA.AL32UTF8 で、日本語の正しい設定は JAPANESE_JAPAN.AL32UTF8 になります。

APAR:IY39348

「IBM Tivoli Enterprise Console コマンドとタスクのリファレンス」の第 1 章『Commands』の **wrb** コマンドを説明するセクションで、以下の情報を追加する必要があります。

-imprbclass *class_file* [-encoding *encoding*][-before *class_file* |
-after *class_file*] [-force] *rule_base*

イベント・クラス指定のファイル (BAROC ファイル)をルール・ベースにインポートします。引き数とともに指定されていない限り、クラス指定の最後に追加します。クラス・セット・ファイルに構文エラー、存在しないイベント・クラス、列挙への参照が含まれる場合、またはイベント・クラスや列挙が重複して定義されている場合、エラー・メッセージが表示されます。クラス・ファイル内のクラスが別のファイルのクラスから派生したものである場合、まずクラスの派生元であるクラス・ファイルをルール・ベースにインポートしてから、それらのクラスを含むクラス・ファイルをインポートします。たとえば、B.baroc クラス・ファイルが、A.baroc クラス・ファイルから派生したクラスを含む場合、まず A.baroc クラス・ファイルをインポートする必要があります。

class_file

インポートするクラス・ファイルの名前。これは BAROC ファイルへのパスでなければなりません。

rule_base

インポートされるクラス・セットを受け取るルール・ベースの名前を指定します。

-after *class_file*

インポートされるクラス・ファイルの後にあるクラス・ファイルを指定します。

-before *class_file*

インポートされるクラス・ファイルの前にあるクラス・ファイルを指定します。

-encoding *encoding*

クラス・ファイルの文字エンコードを指定します。このオプションが指定された場合、クラス・ファイルは指定された文字エンコードで開かれます。デフォルトの文字エンコードは UTF-8 です。エンコード・セットの詳細については、このセクションで後述している『**encoding オプションの基本エンコード・セットのリスト**』を参照してください。

-force

ルール・ベースの不整合が生じた場合でも、クラス・ファイルをインポートします。

-imprbrule *rule_file* [-encoding *encoding*][**-force**] *rule_base*

ルール・セット・ファイルをルール・ベースにインポートします。ルールがルール・ベースにインポートされる順序は重要ではありません。これは、ルール・ベースにインポートされるルール・セットは、実行される前にルール・ベース・ターゲットにインポートされる必要があるためです。ルール・セットがルール・ベース・ターゲットにインポートされる順序は、特定のルール・エンジンがルールを実行する順序を指定します。インポートされているルールが存在しないイベント・クラスを参照する場合は、エラー・メッセージが表示されます。**-force** 引き数を使用して、この整合性チェックをスキップできます。

rule_base

インポートされるルール・セット・ファイルを受け取るルール・ベースの名前を指定します。

rule_file

ルール・ベースにインポートするルール・セット・ファイルの名前を指定します。これは RLS ファイルへのパスでなければなりません。

-encoding *encoding*

ルール・セット・ファイルの文字エンコードを指定します。このオプションが指定されている場合、ルール・セット・ファイルは指定された文字エンコードで開かれます。デフォルトの文字エンコードは UTF-8 です。エンコード・セットの詳細については、このセクションで後述している『**encoding オプションの基本エンコード・セットのリスト**』を参照してください。

-force

存在しないイベント・クラスをルールが参照している場合でも、ルール・セットをルール・ベースに追加します。

encoding オプションの基本エンコード・セットのリスト

Big5	Big5、中国語 (繁体字)
Big5_HKSCS	Big5 (香港拡張付き)、中国語 (繁体字)
Cp037	米国、カナダ、(2 か国語、フランス語)、オランダ、ポルトガル、ブラジル、オーストラリア
Cp273	IBM オーストラリア、ドイツ
Cp277	IBM デンマーク、ノルウェー
Cp278	IBM フィンランド、スウェーデン
Cp280	IBM イタリア
Cp284	IBM カタロニア語/スペイン、スペイン語圏ラテンアメリカ
Cp285	IBM 英国、アイルランド
Cp297	IBM フランス
Cp420	IBM アラビア語
Cp424	IBM ヘブライ語
Cp437	MS-DOS 米国、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ
Cp500	EBCDIC 500V1
Cp737	PC ギリシャ文字
Cp775	PC バルト諸語
Cp838	IBM タイ拡張 SBCS
Cp850	MS-DOS ラテン文字-1
Cp852	MS-DOS ラテン文字-2
Cp855	IBM キリル文字
Cp856	IBM ヘブライ語
Cp857	IBM トルコ語
Cp858	Cp850 の拡張でユーロ文字を含む
Cp860	MS-DOS ポルトガル語
Cp861	MS-DOS アイスランド語
Cp862	PC ヘブライ語
Cp863	MS-DOS カナダ系フランス語
Cp864	PC アラビア語
Cp865	MS-DOS 北欧
Cp866	MS-DOS ロシア語
Cp868	MS-DOS パキスタン
Cp869	IBM 近代ギリシャ語
Cp870	IBM 多言語ラテン文字-2
Cp871	IBM アイスランド
Cp874	IBM タイ
Cp875	IBM ギリシャ語
Cp918	IBM パキスタン (ウルドゥー語)
Cp921	IBM ラトビア、リトアニア (AIX、DOS)
Cp922	IBM エストニア (AIX、DOS)

Cp930	UDC 4370 文字を含む日本語カタカナ漢字、5026 のスーパーセット
Cp933	UDC 1880 文字を含む韓国語、5029 のスーパーセット
Cp935	UDC 1880 文字を含む簡体字中国語ホスト、5031 のスーパーセット
Cp937	UDC 6204 文字を含む繁体字中国語ホスト、5033 のスーパーセット
Cp939	UDC 4370 文字を含む日本語ラテン文字漢字、5035 のスーパーセット
Cp942	IBM OS/2 日本語、Cp932 のスーパーセット
Cp942C	Cp942 の拡張
Cp943	IBM OS/2 日本語、Cp932 および Shift-JIS のスーパーセット
Cp943C	Cp943 の拡張
Cp948	OS/2 中国語 (台湾)、938 のスーパーセット
Cp949	PC 韓国語
Cp949C	Cp949 の拡張
Cp950	PC 中国語 (香港、台湾)
Cp964	AIX 中国語 (台湾)
Cp970	AIX 韓国語
Cp1006	IBM AIX パキスタン (ウルドゥー語)
Cp1025	IBM 多言語キリル文字: ブルガリア、ボスニア、ヘルツェゴビナ、マケドニア (旧ユーゴスラビアマケドニア共和国)
Cp1026	IBM ラテン文字-5、トルコ
Cp1046	IBM アラビア語 - Windows
Cp1097	IBM イラン (現代ペルシャ語)/ペルシャ語
Cp1098	IBM イラン (現代ペルシャ語)/ペルシャ語 (PC)
Cp1112	IBM ラトビア、リトアニア
Cp1122	IBM エストニア
Cp1123	IBM ウクライナ
Cp1124	IBM AIX ウクライナ
Cp1140	Cp037 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1141	Cp273 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1142	Cp277 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1143	Cp278 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1144	Cp280 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1145	Cp284 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1146	Cp285 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1147	Cp297 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1148	Cp500 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1149	Cp871 の拡張でユーロ文字を含む
Cp1250	Windows 東欧
Cp1251	Windows キリル文字
Cp1253	Windows ギリシャ文字
Cp1254	Windows トルコ語
Cp1255	Windows ヘブライ語
Cp1256	Windows アラビア語
Cp1257	Windows バルト諸語
Cp1258	Windows ベトナム語
Cp1381	IBM OS/2、DOS 中国 (中華人民共和国)
Cp1383	IBM AIX 中国 (中華人民共和国)
Cp33722	IBM-eucJP - 日本語 (5050 のスーパーセット)
EUC_CN	GB2312、EUC エンコーディング、中国語 (簡体字)
EUC_JP	JIS X 0201、0208、0212、EUC エンコーディング、日本語
EUC_JP_LINUX	JIS X 0201、0208、EUC エンコーディング、日本語
EUC_KR	KS C 5601、EUC エンコーディング、韓国語
EUC_TW	CNS11643 (Plane 1-3)、EUC エンコーディング、中国語 (繁体字)
GBK	GBK、中国語 (簡体字)
ISO2022CN	ISO 2022 CN、中国語 (Unicode への変換のみ)

ISO2022CN_CNS	ISO 2022 CN 形式の CNS 11643、繁体字中国語 (Unicode からの変換のみ)
ISO2022CN_GB	ISO 2022 CN 形式の GB 2312、簡体字中国語 (Unicode からの変換のみ)
ISO2022JP	JIS X 0201、ISO 2022 形式の 0208、日本語
ISO2022KR	ISO 2022 KR、韓国語
ISO8859_2	ISO 8859-2、ラテン・アルファベット No. 2
ISO8859_3	ISO 8859-3、ラテン・アルファベット No. 3
ISO8859_4	ISO 8859-4、ラテン・アルファベット No. 4
ISO8859_5	ISO 8859-5、ラテン/キリル文字アルファベット
ISO8859_6	ISO 8859-6、ラテン/アラビア文字アルファベット
ISO8859_7	ISO 8859-7、ラテン/ギリシャ文字アルファベット
ISO8859_8	ISO 8859-8、ラテン/ヘブライ語アルファベット
ISO8859_9	ISO 8859-9、ラテン・アルファベット No. 5
ISO8859_13	ISO 8859-13、ラテン・アルファベット No. 7
ISO8859_15_FDIS	ISO 8859-15、ラテン・アルファベット No. 9
JIS0201	JIS X 0201、日本語
JIS0208	JIS X 0208、日本語
JIS0212	JIS X 0212、日本語
JISAutoDetect	Shift-JIS、EUC-JP、ISO 2022 JP の検出および変換 (Unicode への変換のみ)
Johab	Johab、韓国語
KOI8_R	KOI8-R、ロシア語
MS874	Windows タイ語
MS932	Windows 日本語
MS936	Windows 簡体字中国語
MS949	Windows 韓国語
MS950	Windows 繁体字中国語
MacArabic	Macintosh アラビア語
MacCentralEurope	Macintosh ラテン文字-2
MacCroatian	Macintosh クロアチア語
MacCyrillic	Macintosh キリル文字
MacDingbat	Macintosh Dingbat
MacGreek	Macintosh ギリシャ語
MacHebrew	Macintosh ヘブライ語
MacIceland	Macintosh アイスランド語
MacRoman	Macintosh Roman
MacRomania	Macintosh ルーマニア
MacSymbol	Macintosh シンボル
MacThai	Macintosh タイ
MacTurkish	Macintosh トルコ語
MacUkraine	Macintosh ウクライナ
SJIS	Shift-JIS、日本語
TIS620	TIS620、タイ

このフィックスパックで追加、または差し替えられたファイル

このフィックスパックで IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.8 製品に追加されたファイルは、以下のとおりです。

TME/ACP/acp
TME/ACP/acpep
TME/ACP/acp_gateway
TME/ACP/tec-acf-remove.sh
TME/TEC/tec_gateway
bin/wstoptecgw
bin/waddac
bin/wdelac
bin/wsetac

bin/wlsac
bin/wsetaddflt
bin/wlsaddflt
bin/wsetaeenv
bin/wlsaenv
bin/wsetadval
bin/wlsadval
bin/wsetadenv
bin/wlsadenv
bin/wsetadgui
bin/waddacpattr
bin/wlsadgui
bin/wtouchac
bin/postemsg
bin/postzmsg
bin/wpostemsg
bin/wpostzmsg
TME/TEC/evd.jar
TME/TEC/zce.jar
TME/ACF_REP/.tec_gateway_diag_config
TME/ACF_REP/tecad_nt_C.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_de.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_es.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_fr.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_it.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_ja.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_ko.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_pt_Br.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_zh_CN.fmt
TME/ACF_REP/tecad_nt_zh_TW.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_C.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_de.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_es.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_fr.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_it.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_ja.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_ko.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_pt_Br.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_zh_CN.fmt
TME/ACF_REP/tecad_win_zh_TW.fmt
bin/aix4-r1/bin/postemsg
bin/hpux10/bin/postemsg
bin/solaris2/bin/postemsg
bin/w32-ix86/bin/postemsg.exe
bin/linux-ix86/bin/postemsg
bin/linux-s390/bin/postemsg
bin/aix4-r1/bin/postzmsg
bin/hpux10/bin/postzmsg
bin/solaris2/bin/postzmsg
bin/w32-ix86/bin/postzmsg.exe
bin/linux-ix86/bin/postzmsg
bin/linux-s390/bin/postzmsg
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/update_conf

bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/enh/bin/init.tecad_logfile
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile.cfg
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/enh/bin/init.tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile.cfg
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/enh/bin/init.tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile.cfg
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/enh/bin/init.tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile.cfg
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/aix4-r1/TME/ACP/acpep
bin/hpux10/TME/ACP/acpep
bin/solaris2/TME/ACP/acpep
bin/linux-ix86/TME/ACP/acpep
bin/linux-s390/TME/ACP/acpep
bin/w32-ix86/TME/ACP/acpep
bin/aix4-r1/TME/ACP/acpep_install
bin/hpux10/TME/ACP/acpep_install
bin/solaris2/TME/ACP/acpep_install
bin/linux-ix86/TME/ACP/acpep_install
bin/linux-s390/TME/ACP/acpep_install
bin/w32-ix86/TME/ACP/acpep_install
bin/aix4-r1/TME/ACP/wacpadin
bin/hpux10/TME/ACP/wacpadin
bin/solaris2/TME/ACP/wacpadin
bin/linux-ix86/TME/ACP/wacpadin
bin/linux-s390/TME/ACP/wacpadin
bin/w32-ix86/TME/ACP/wacpadin
lib/linux-ix86/libstdc++-libc6.1-2.so.3
lib/linux-s390/libstdc++-libc6.1-2.so.3
lib/aix4-r1/libteclcf.a
lib/hpux10/libteclcf.sl
lib/solaris2/libteclcf.so

lib/linux-ix86/libteclcf.so
lib/linux-s390/libteclcf.so
lib/w32-ix86/teclcf.dll
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
bin/aix4-r1/bin/wpostemsg
bin/hpux10/bin/wpostemsg
bin/solaris2/bin/wpostemsg
bin/w32-ix86/bin/wpostemsg.exe
bin/linux-ix86/bin/wpostemsg
bin/linux-s390/bin/wpostemsg
bin/aix4-r1/bin/wpostzmsg
bin/hpux10/bin/wpostzmsg
bin/solaris2/bin/wpostzmsg
bin/w32-ix86/bin/wpostzmsg.exe
bin/linux-ix86/bin/wpostzmsg
bin/linux-s390/bin/wpostzmsg
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_nt.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecadnts.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/sctlnt.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/nt_gencds.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_win.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecadwins.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/sctlwin.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/win_gencds.exe
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmps.exe
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile
bin/aix4-r1/TME/TEC/adapters/enh/bin/logfile_gencds
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile
bin/hpux10/TME/TEC/adapters/enh/bin/logfile_gencds
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile
bin/solaris2/TME/TEC/adapters/enh/bin/logfile_gencds
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile
bin/linux-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/logfile_gencds
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_logfile
bin/linux-s390/TME/TEC/adapters/enh/bin/logfile_gencds
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_nt.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecadnts.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/sctlnt.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/nt_gencds.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecad_win.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/tecadwins.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/sctlwin.exe
bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/win_gencds.exe

bin/w32-ix86/TME/TEC/adapters/enh/bin/wsighup.exe
TME/TEC/380ACFFP.after
TME/ACP/acpeedit.d
TME/TEC/38ACFENA.after
TME/TEC/ACF_ENH.after
TME/ACP/acp
bin/mips-irix5/bin/postemsg
bin/osf-axp/bin/postemsg
bin/reliant-unix/bin/postemsg
bin/sequent/bin/postemsg
bin/solaris2-ix86/bin/postemsg
bin/uw2-ix86/bin/postemsg
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_logfile
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/update_conf
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile.cfg
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-logfile.sh
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/init.tecad_snmp
bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp.cfg
bin/mips-irix5/TME/ACP/acpep
bin/mips-irix5/TME/ACP/acpep_install
bin/mips-irix5/TME/ACP/wacpadin
bin/osf-axp/TME/ACP/acpep
bin/osf-axp/TME/ACP/acpep_install
bin/osf-axp/TME/ACP/wacpadin
bin/reliant-unix/TME/ACP/acpep
bin/reliant-unix/TME/ACP/acpep_install
bin/reliant-unix/TME/ACP/wacpadin
bin/sequent/TME/ACP/acpep
bin/sequent/TME/ACP/acpep_install
bin/sequent/TME/ACP/wacpadin
bin/solaris2-ix86/TME/ACP/acpep
bin/solaris2-ix86/TME/ACP/acpep_install
bin/solaris2-ix86/TME/ACP/wacpadin

bin/uw2-ix86/TME/ACP/acpep
 bin/uw2-ix86/TME/ACP/acpep_install
 bin/uw2-ix86/TME/ACP/wacpadin
 bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_logfile
 bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/logfile_gencds
 bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/mips-irix5/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/osf-axp/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/reliant-unix/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/sequent/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/solaris2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad_snmp
 bin/uw2-ix86/TME/TEC/adapters/bin/tecad-remove-snmp.sh
 bin/mips-irix5/bin/wpostemsg
 bin/osf-axp/bin/wpostemsg
 bin/reliant-unix/bin/wpostemsg
 bin/sequent/bin/wpostemsg
 bin/solaris2-ix86/bin/wpostemsg
 bin/uw2-ix86/bin/wpostemsg
 TME/TEC/380ACFT2FP.after
 TME/TEC/tec_ui_svr.jar
 TME/TEC/tec_console.jar
 TME/TEC/tec_client.jar(!linux-s390)
 TME/TEC/tec_svr.jar
 TME/TEC/avail_common.jar
 TME/TEC/jcf.jar
 TME/TEC/jcf.jks
 TME/TEC/jrim.jar
 TME/TEC/jsafe.zip
 TME/TEC/ibmjsse.jar
 TME/TEC/tec_svr_stubs.jar
 TME/TEC/tec_ui_svr_stubs.jar
 bin/wcrtnvgroups(!w32-ix86)
 bin/wcrtnvgroups.cmd(w32-ix86)
 bin/wconsole(!w32-ix86)
 bin/wconsole.cmd(w32-ix86)
 bin/wmigcon(!w32-ix86)
 bin/wmigcon.cmd(w32-ix86)
 bin/wtecexport.cmd(w32-ix86)
 bin/wtecimport.cmd(w32-ix86)
 bin/wtecexport(!w32-ix86)
 bin/wtecimport(!w32-ix86)
 bin/tec_console(!w32-ix86)
 bin/tec_console.cmd(w32-ix86)
 TME/TEC/contrib/console/addnewuser.sh
 TME/TEC/contrib/console/assignneweg.sh
 bin/chkclass
 bin/postemsg
 bin/wpostemsg

bin/postzmsg
bin/wpostzmsg
TME/TEC/EIF/samples/adapters/sampleAdapter.c
TME/TEC/EIF/samples/adapters/java/SampleAdapter.java
TME/TEC/evd.jar
TME/TEC/zce.jar
libteceef.a(solaris2,aix4-r1,linux-ix86,hpux10,w32-ix86,linux-s390)
libteceefgw.a(solaris2,aix4-r1,linux-ix86,hpux10,w32-ix86,linux-s390)
libteceeffwk.a(solaris2,aix4-r1,linux-ix86,hpux10,w32-ix86,linux-s390)
libteclcf.so(solaris2)
libteclcf.so(linux-ix86)
libteclcf.so(linux-s390)
libteclcf.a(aix4-r1)
libteclcf.sl(hpux10)
eifdll/teclcf.dll(w32-ix86)
TME/TEC/adapters/bin/tecad_hpov
TME/TEC/adapters/bin/tecad_hpov.exe
bin/chkclass
bin/postemsg
bin/postzmsg
bin/wchkclass
bin/wrb
bin/wcomprules
bin/wcprb
bin/wcrtb
bin/wrtsrc
bin/wdelrb
bin/wdelrbclass
bin/wdelrbrules
bin/wdelsrc
bin/wimprbclass
bin/wimprbrules
bin/wloadrb
bin/wlscurrb
bin/wlsemmsg
bin/wlsvrcfg
bin/wlsrb
bin/wlsrbclass
bin/wlsrbrules
bin/wlssrc
bin/wpostemsg
bin/wpostzmsg
bin/wsendresp
bin/wsetemsg
bin/wsetsvrcfg
bin/wsetrb
bin/wsetsrc
bin/wstartesvr
bin/wstatesvr
bin/wstopesvr
bin/wtdbclear
bin/wtdbclear.pl
bin/wtdbstat
bin/wtdbpace
bin/wtdumper
bin/wtdumppl
bin/wtdumptr
bin/wrimsqll
bin/winstruct_event
TME/TEC/tec_agent_demo
TME/TEC/contrib/SendEvents.pl
TME/TEC/sql/genrunstats.sh
TME/TEC/sql/wdbmaint.sh

TME/TEC/sql/genreorg.sh
TME/TEC/interpreter/lib/system.wic
TME/TEC/bin/BIMpcomp
TME/TEC/TECpcomp
TME/TEC/interpreter/bin/BIMprolog
TME/TEC/interpreter/lib/unix/UnixTime.wic
TME/TEC/bin/BIMpcomp
TME/TEC/TECpcomp
TME/TEC/interpreter/lib/unix/UnixTime.wic
bin/wrb
bin/wtdbclear
bin/wtdumper
bin/wtdumppl
bin/wtdumptr
bin/wtdbpace
bin/wsetemsg
bin/wlsemmsg
bin/wsendresp
bin/wrimsql
TME/TEC/wrbupgrade
TME/TEC/nvsync.sh
TME/TEC/tec_config
TME/TEC/tec_dispatch
TME/TEC/tec_reception
TME/TEC/tec_server
TME/TEC/tec_rule
TME/TEC/tec_rule_data
TME/TEC/tec_rule_non_tme.tar
TME/TEC/tec_task
TME/TEC/tec_tasks.tll
TME/TEC/tec_compile_rules
TME/TEC/tec_compile_rules_data
TME/TEC/tec_compile_rules_gui.sh
TME/TEC/.tec_config
TME/TEC/tec-remove.sh
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/event_specifiers.wic(aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/hpux10/event_specifiers.wic(hpux10)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/hpux9/event_specifiers.wic(hpux9)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/solaris2/event_specifiers.wic(solaris2)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/event_specifiers.wic(w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/event_specifiers.wic(linux-ix86)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-s390/event_specifiers.wic(linux-s390)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/templates.wic(aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/hpux10/templates.wic(hpux10)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/solaris2/templates.wic(solaris2)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/templates.wic(w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/templates.wic(linux-ix86)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_TEMPLATES/linux-s390/templates.wic(linux-s390)
TME/TEC/default_rb/.rbtargets/EventServer/TEC_CLASSES/tecad_nt.baroc
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/hpux10/event_specifiers.wic(hpux10)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/event_specifiers.wic(aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/solaris2/event_specifiers.wic(solaris2)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/event_specifiers.wic(w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/event_specifiers.wic(linux-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-s390/event_specifiers.wic(linux-s390)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/hpux10/templates.wic(hpux10)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/aix4-r1/templates.wic(aix4-r1)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/solaris2/templates.wic(solaris2)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/w32-ix86/templates.wic(w32-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-ix86/templates.wic(linux-ix86)
TME/TEC/default_rb/TEC_TEMPLATES/linux-s390/templates.wic(linux-s390)
TME/TEC/default_rb/TEC_CLASSES/root.baroc
TME/TEC/default_rb/TEC_CLASSES/netview.baroc

TME/TEC/default_rb/TEC_CLASSES/tecad_nt.baroc
TME/TEC/default_rb/TEC_RULES/netview.rls
TME/RULE_BUILDER/builder
TME/RULE_BUILDER/builder_data
TME/TEC/builder_data(w32-ix86)
TME/FORMAT_EDITOR/fmt_edit
TME/TEC/contrib/ParseEvents.pl
TME/TEC/tec_server_gui
TME/TEC/tec_db_calls
TME/TEC/sql/wdbmaint.sh
TME/TEC/upg_baroc.pl
TME/TEC/upg_templates.pl
TME/TEC/TECW030800.sys(w32-ix86)
TME/TEC/TECH030800.sys(hpux10)
TME/TEC/TECS030800.sys(solaris2)
TME/TEC/TECX030800.sys(aix4-r1)
TME/TEC/TECL030800.sys(linux-ix86)
TME/TEC/TECL030800.sys(linux-s390)
TME/TEC/tec_rb.jar
TME/TEC/console.jar
TME/TEC/nways.jar
TME/TEC/nvsync.jar
TME/TEC/event.jar
TME/TEC/jsafe.zip
TME/TEC/jcf.jar
TME/TEC/jcf.jks
TME/TEC/ibmjsse.jar
TME/TEC/gbin_upg_after.sh
TME/TEC/svrfp01_after.sh
TME/TEC/tec_ui_server
TME/TEC/TroubleTicket.sh

カスタマー・サポートとの連絡

資料およびカスタマー・サポートについては営業担当員にお問い合わせください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木
3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM はまたこれらの情報に掲載されている製品やプログラムを何時でも、予告なしに改善 または変更することがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
224A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他の ライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で 決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

商標

IBM、IBM ロゴ、AIX、DB2、IBMLink、Informix、OS/2、OS/400、Tivoli、Tivoli ロゴ、Tivoli Enterprise Console、および TME は、IBM Corporation の商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。